# 環境保全功労者功績内容等

| 氏名・年齢・住所・職業 | 功績 |
|---|---|
| 秋元　肇<br>あきもと　はじめ<br><br>財団法人<br>日本環境衛生センター酸性雨研究センター所長 | 氏は長年にわたり、大気化学分野における学術研究に従事しており、研究者の立場から我が国の大気汚染問題、地球環境問題の解決に取り組まれている。学術研究においては、大気化学の研究体系を大気汚染物質の排出量推計、化学輸送モデル、野外・衛星観測の分野として確立しており、大気化学を地球温暖化や大気環境変化とともにとらえて多くの成果を生み出してきている。その活動の領域は日本だけにとどまらず、広い視野とリーダーシップは研究実績とともに、国際的にも高く評価されている。主な国際活動としては、CACGP/IAMAS（大気化学と地球汚染委員会/国際気象学・大気科学協会）会長、IGAC/IGBP（大気化学国際協同研究計画/地球圏・生物圏国際協同研究計画）評議員、「Environmental Science and Technology」誌のアドバイザリー・ボードなどを担っている。<br>　また、平成１３年度より環境省の酸性雨対策検討会の座長を務めており、これまで「酸性雨対策調査総合とりまとめ報告書（平成１６年６月）」、「酸性雨長期モニタリング報告書（平成２１年３月）」の取りまとめに尽力いただいている。<br>　さらに、平成１３年より本格稼働している東アジア酸性雨モニタリングネットワーク（現在１３か国が参加）の構築の際には、技術的内容の基盤確立に貢献されている。<br>　現在は、酸性雨研究センターの所長として、東アジアにおける酸性雨モニタリングや対流圏オゾン問題への取り組みを推進するばかりでなく、大気汚染対策と温暖化対策を同時に進めるコベネフィット・アプローチに関する研究及び技術面からの協力体制の構築にも取り組まれている。<br>　このように、秋元氏は我が国の大気化学研究の推進及び東アジア全体における大気汚染問題の解決に多大な貢献をされている。<br>主な著書：「オゾン層を守る」（共著）NHKブックス、「地球温暖化を防ぐ」（共著）NHKブックス、「地球環境科学」（共著）朝倉書店、「対流圏大気の化学と地球環境」（共著）学会出版センター |
| 北野　大<br>きたの　まさる<br><br>明治大学理工学部応用化学科教授<br>中央環境審議会臨時委員 | 氏は、応用化学の専門家として、また、化学物質に関するリスクコミュニケーションの第一人者として、環境省が推進する環境保健行政において多大な貢献をいただいているところである。<br>　平成７年１１月から中環審委員として、環境化学・応用化学の専門家として、参画いただいており、ＰＲＴＲ制度の導入や化管法第一種指定化学物質等の指定等に多大な貢献をいただいた。<br>　省庁再編後の１３年２月から中環審臨時委員として、環境保健部会及び大気環境部会に所属しており、特に環境保健部会においては、今後の化学物質の審査及び規制の在り方、石綿による健康被害の救済における指定疾病に係る医学的判定に関する考え方、今後の化学物質環境対策の在り方など、化学物質の安全性管理等に係る重要な事項の決定に関して多大な御尽力を頂いているところである。<br>　また、総理主宰「２１世紀『環の国』づくり会議」の提言に基づき、１３年１２月に設置された「化学物質と環境円卓会議」（事務局環境保健部）は、市民、産業、行政の代表が化学物質の環境リスクに関する情報の共有と相互理解を促進するリスクコミュニケーションの場である。氏は、学識経験者の代表及びリスクコミュニケーションの第一人者として、同会議の設置当初から本年３月まで２５回開催のうち、約半数の１２回に座長として御出席され、円卓会議の基本的な進め方といった会議の運営のみならず、リスクコミュニケーションのあり方などについて、行政、産業、国民の代表による様々な意見を取りまとめ、各界の相互理解に多大な貢献を果たしている。<br>　１７年度からは化学物質の内分泌かく乱作用に関する検討会（親検討会）委員に就任いただくとともに、同年策定されたExTEND2005(化学物質の内分泌かく乱作用に関する環境省の今後の対応方針)に基づき、内分泌かく乱作用問題に係る国民の理解を深めるため、情報提供及びリスクコミュニケーションの促進を図る観点から設置された、同リスクコミュニケーション推進検討部会の座長にも就任いただき、ホームページ作成や市民参加型のシンポジウムの開催による情報発信のあり方など、相互理解の手法について御助言をいただいている。特に、内分泌かく乱作用に関する国内外の正確な情報を市民、産業、行政等の全ての者が共有し、相互に意思疎通を図ることを目的として、平成10年から２０年まで開催された「化学物質の環境リスクに関する国際シンポジウム」においては、内分泌かく乱作用問題に係る取組の１０年目の節目となる第10回（19年12月）において総合司会を務めていただき、参加総数472名の会議を成功裡にまとめていただくなど、リスクコミュニケーション推進に御尽力をいただいた。<br>　また、２０年度からは親検討会の座長にも就任いただき、ExTEND2005に基づく調査研究全体の企画、評価をとりまとめていただいた。同検討会では、ExTEND2005の見直しも含めた今後の進め方について、２１年度より御議論いただいているところであり、今年度御助言をとりまとめていただく予定である。<br>　最後に国際貢献として、残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約（POPs条約）の下に設置されている残留性有機汚染物質検討委員会（POPRC)の日本代表委員として、１７年の第１回から昨年の第5回まで、新規POPs物質の検討をいただいている。<br>　POPRCの議論の結果、昨年5月に開催されたCOP4において、新たに条約対象物質に9物質の追加が決定されるなど、氏の活動は国際的な化学物質対策に貢献している。<br>　以上のとおり、氏は、我が国の環境行政の推進に、長年にわたり、多大な貢献を果たしており、環境保全功労者として表彰するに十分な業績を有すると認められるので推薦するものである。 |

# 環境保全功労者功績内容等

| 氏名・年齢・住所・職業 | 功　績 |
|---|---|
| 齋藤　勝<br>さいとう　まさる<br><br>財団法人東京動物園協会顧問 | 昭和４３年<br>日本動物園水族館協会の協議懇談会において、トキ・コウノトリの保護体制づくりが提案・決定され、上野・多摩・井の頭の三動物園により「トキ保護増殖委員会」が開かれ、委員会立ち上げメンバーとして参加。<br><br>昭和４５年<br>文化庁、新潟県からの依頼を受け、日本動物園水族館協会内に設置された「トキ保護実行委員会」に獣医師として参加し、トキ近似種を用い健康に飼育管理するための飼料の開発、増殖行動の研究、人工ふ化、人工育雛などの研究を行う。<br><br>昭和５５年<br>環境庁は「特定鳥獣増殖対策検討会」のトキ分科会の答申を受けて、全羽捕獲、飼育下における増殖を決定。その際に組織された「トキ増殖技術検討会」に参加し、捕獲事業への協力及び捕獲後の飼育管理について指導助言を行う。<br><br>平成１４年<br>トキ保護分科会野生復帰ワーキンググループが設置され、座長を務めるなどして、トキの野生復帰に向け多大な貢献をする。平成１９年より同分科会「トキ飼育繁殖専門家会合」委員。<br>長年にわたり動物園事業に携わり、特に多摩動物公園の飼育・繁殖技術の基盤を築いた。<br>日本動物園水族館協会の「動物園水族館雑誌」や東京動物園協会機関誌「どうぶつと動物園」に多数の論文を残しており、他に「霊長類」（同朋社出版　日本語監修）。「特定外来生物・特定（危険）動物へのマイクロチップ埋め込み技術マニュアル」（環境省自然環境局編共著）、「どうぶつのかいかた」（実業之日本社　監修）、「どうぶつえんとすいぞくかん」、「かういきもの」（ポプラ社　編著）などがある。 |
| 土屋　誠<br>つちや　まこと<br><br>琉球大学理学部教授 | 長年にわたり、サンゴ礁島嶼生態系（マングローブ域、海草帯を含む）において、その動態を明らかにするために、生物の種間関係、生物から環境に対する働きかけ、物質循環などをテーマとした研究を、生物多様性、生態系機能などをキーワードとして実施しており、『日本のサンゴ礁』『美ら島の自然史』『サンゴ礁は異常事態』『海洋ベントスの生態学』『サンゴ礁のちむやみ』など多数の著書の執筆にも携わっている。また、自然環境の重要性の科学的裏付けを得ることも重要課題としており、生態系が有する機能を科学的に解明する研究テーマを扱っている。さらに、２１世紀COEプログラム「サンゴ礁島嶼系の生物多様性の総合解析－アジア太平洋における教育拠点形成」の拠点リーダーとして尽力するなど、沖縄での研究教育に加えて、アジア太平洋域の大学などとの共同研究を推進している。<br>平成１５年１月から中央環境審議会臨時委員として、自然環境部会及び野生生物部会において自然環境行政の施策の検討に貢献している。<br>さらに、環境省が実施する石西礁湖自然再生事業に石西礁湖自然再生推進調査専門委員会座長、石西礁湖自然再生事業支援専門委員会座長として平成１５年度から参画し、サンゴ礁生態系に関する広範な知見を活かして事業実施に貢献するとともに、１８年２月からは石西礁湖自然再生協議会（事務局：沖縄総合事務局港湾計画課、那覇自然環境事務所）の会長として、様々な立場の協議会委員と連携した自然再生の推進に貢献している。<br>平成２０年度から２１年度には、環境省のサンゴ礁保全行動計画策定会議に委員として参画し、同会議のサンゴ礁価値評価分科会座長を務め、２２年４月公表予定の同計画の策定に貢献した。<br>また、環境省那覇自然環境事務所において進める国指定漫湖鳥獣保護区の保全事業（ラムサール条約登録湿地として世界的に重要な同湿地で減少している渡り鳥の飛来数を回復させる事業）の検討委員会委員として，保全事業の実施に当たり有益な助言を得ている。 |

# 環境保全功労者功績内容等

| 氏名・年齢・住所・職業 | 功　　　績 |
| --- | --- |
| 戸村　泰<br>とむら　やすし<br><br>特定非営利活動法人　環境カウンセラー千葉県協議会副理事長 | 【１．NPO法人環境カウンセラー全国連合会（ECU）の活動を通じて、全国各地の環境保全活動の推進に努めている】<br>特にECU副理事長に従事中、平成１８年に環境カウンセラー認定後のさらなる研鑽などを目的としたECU理事長表彰制度について創設委員長として注力され創設した。エコアクション２１審査人登録（平成１６年）以後、毎年４件ほどの企業の審査を行うと共に、現在まで地域事務局千葉県環境財団の運営委員でもあり、中小企業のEMSの普及に貢献している。<br>【２．環境カウンセラー登録（平成１４年）以後、NPO法人環境カウンセラー千葉県協議会（EC千葉）やNPO法人環境ネット、地域の環境保全活動に注力している】<br>EC千葉では、事務局長、総務部長、副理事長を歴任し、平成１９年４月～平成２１年３月の間、理事長を務める。平成２１年４月より副理事長に就任、現在に至る。また、戸村氏らが中心となって行った「環境学習基本方針をつくろう会」や「ちば環境学習ネットワーク会議」の活動を通じた環境学習の推進や、環境マネジメントシステムの一つであるエコアクション２１の普及に貢献されたことが評価され、平成２１年１１月千葉県よりNPO法人環境カウンセラー千葉県協議会に「環境功労賞」が授与された。<br>【３．千葉県、千葉市との協働】<br>千葉県地球温暖化防止推進員、ちば環境教育ネットワーク会議委員、千葉市地球温暖化防止アドバイザー、千葉市ごみ分別スクール講師、千葉市焼却ごみ１／３削減市民会議委員、第４回３Ｒ推進全国大会２００９in千葉の実行委員会委員などとして、環境保全活動に努力している。<br>【４．退職後ボランティア活動にも注力し、地域の福祉住みよい暮らしに努力する】<br>在住する検見川マリンタウン団地の管理組合理事を平成１４年から５年間務め、千葉市廃棄物適正化推進員として、団地のごみ問題の改善に努めている。 |
| 原　重一<br>はら　じゅういち<br><br>原重一観光研究所主宰 | 氏は長年にわたり観光に関する研究をつづけてきており、その一環として国立公園の利用に関する研究を実践的に続けてきた。<br>最近では、阿寒国立公園の阿寒湖畔集団施設地区において、平成１２年から約１０年にわたり、特定非営利活動法人阿寒観光協会まちづくり推進機構、（財）前田一歩園財団など地元の関連団体、地元住民とともに『阿寒湖温泉再生プラン２０１０』を策定し、同地区の管理運営、いわゆる地域マネジメントに取り組んできた。阿寒湖畔（観光船乗り場周辺）における園地整備（環境省整備）もその一環であり、現在では同地区の賑わいの核として機能している。なお、２００５年からは、（NPO）阿寒観光協会まちづくり推進機構の評議員として、組織運営をはじめとするまちづくり全般に対して幅広いアドバイスも行っている。平成１９年３月こうした地域づくりの指針となる息の長い取り組みは、釧路市をはじめとして地元からも高く評価されている。<br>また、環境省（自然環境局国立公園課）が設置した「国立・国定公園の指定及び管理運営に関する検討会」に検討委員・管理運営分科会座長として参画し、同検討会による「国立・国定公園の指定及び管理運営に関する提言」（平成１９年３月）に深く関与した。 |
| 林　良博<br>はやし　よしひろ<br><br>東京農業大学教授<br>山階鳥類研究所所長 | 氏は東京大学総合研究博物館長、同大学農学部長、及び同大学副学長を歴任され、平成２２年４月からは財団法人山階鳥類研究所所長に就任され現在に至る。人間と動物が生態系において自然との調和を果たす役割と機能について研究されており、１９９４年にはヒトと動物の関係学会を発起人代表として設立なされ、その後７年間会長を勤められている。またアニマルセラピーなどの動物が人間にもたらす健康増進効果についても研究されており、代表的な著書としては「ペットは人間のお医者さん」がある。<br>氏は中央環境審議会動物愛護部会部会長（平成１７年１月就任）として、平成１７年６月に改正（平成１８年６月に施行）された「動物の愛護及び管理に関する法律」の各規定に基づき、「動物取扱業者が遵守すべき動物の管理の方法等の細目」（平成１８年１月２０日環境省告示第２０号）、「特定飼養施設の構造及び規模に関する基準の細目」（平成１８年１月２０日環境省告示第２１号）、「特定動物の飼養又は保管の方法の細目」（平成１８年１月２０日環境省告示第２２号）、「動物が自己の所有に係るものであることを明らかにするための措置」（平成１８年１月２０日環境省告示第２３号）、「犬及びねこの引取り並びに負傷動物等の収容に関する措置」（平成１８年１月２０日環境省告示第２６号）の策定に尽力され、特に、動物愛護管理法第５条の規定に基づく「動物の愛護及び管理に関する施策を総合的に推進するための基本的な指針（動物愛護管理基本指針）」においては、その策定に多大なご貢献をされている。動物愛護管理基本指針は、我が国の今後１０年間における動物の愛護及び管理に関する施策の推進に関する基本的な方向を定める重要な指針であるが、氏は、この動物愛護管理基本指針において、①国民的な動物の愛護及び管理に関する活動の盛り上げ②長期的視点からの総合的・体系的アプローチ③関係者間の協働関係の構築④施策の実行を支える基盤の整理を4つの柱とすることをとりまとめられた。<br>また、中央環境審議会動物愛護部会ペットフード小委員会委員長（平成２０年１月就任）として、日本初のペットフードの安全に関する法律「愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律」に基づくペットフードの基準・規格の設定にご貢献をなされた。<br>以上の通り氏は長年の研究業績に加え行政方面においても多大な功績があり、我が国の環境保全分野とりわけ動物愛護管理分野への貢献は極めて大きいものである。 |

# 環境保全功労者功績内容等

| 氏名・年齢・住所・職業 | 功　績 |
|---|---|
| 福井貨物自動車株式会社<br>ふくいかもつじどうしゃかぶしきかいしゃ<br><br>代表取締役社長　清水　則明 | １．エコドライブ活動<br>①エコドライブ活動を長年にわたり継続的に推進<br>エコドライブ活動を統括するのは、清水則明社長を委員長とする「エコドライブ委員会」。この委員会では、毎月の目標数値や重点活動項目を設定し、その推進状況のチェック・指導・監督を行っている。そして、平成１４年の発足以来、毎月開催され平成２２年４月には延べ１００回を数え、継続的に改善活動を行っている。<br><br>②エコドライブ委員会が推進する活動内容<br>「エコドライブ委員会」では、毎月活動項目を設定し、各支店（全１２支店）や運行種別ごとの小集団グループ（４３班）に分け、「エコ・ミーティング」を毎月開催。このミーティングの中では、グループリーダーのもと、各ドライバーが省燃費の具体的な数値目標を掲げ、成果や反省点を話し合っている。そして、燃費向上に結びつくような効果的な工夫・対策・ノウハウについては、グループメンバーに共有され、さらに、エコドライブ委員会を通じて全ドライバーへと水平展開されていく仕組みが構築されている。<br>ドライバーにエコドライブ実線の意識を持たせるための材料としては、「実走燃費」を活用。そのデータ構築方法についても、デジタコなどの機器に頼るのではなく、ドライバーが燃費の数値を自然に意識する環境を作る目的で、あえて“ドライバー自ら手書きで燃費を記録する燃費記録用紙”を各車両（全３５５台）に導入するなど、燃費データの構築方法にも工夫を凝らしている。<br><br>③環境負荷削減効果<br>対平成１３年比で、延べ（H１４年～H２０年のデータ）燃費削減量3,627,598リットル、二酸化炭素9,504,308kg（杉の木換算で約678,879本）<br>その他にも、交通事故発生件数が半減している。<br>また、平成１６年度に「安全性優良事業所」認定とともに、「グリーン経営」の認証を取得。<br><br>２．環境負荷低減としてゴミ分別の積極的な取り組み<br>全員参加の班別ゴミ当番制を導入し、社内で発生するゴミを３２種類に徹底分別し、ゴミ全体の９０％再利用を目標に取り組んでいる。 |
| 山下　満<br>やました　みつる<br><br>環境問題研究所長<br>環境カウンセラー会ひょうご理事長 | １．平成１６年には氏が理事長を務める「環境カウンセラー会ひょうご」は、氏が中心となり実施していた地球温暖化防止活動推進が評価され地球温暖化防止活動環境大臣表彰を受賞した。また、平成１８年には氏が中心となり、兵庫県内の環境カウンセラーを集め実施した環境保全活動発信基地としての活動が、地域住民や学校・企業等の環境負荷を低減させる行動として評価されて、兵庫県知事より「ひょうご県民ボランタリー活動賞」を受賞した。これらの活動や草の根運動を通じて、環境カウンセラーの社会的地位向上に貢献した。<br><br>２．平成９年に環境カウンセラー登録と同時に、「環境活動評価プログラム（エコアクション２１）」を中小企業者や行政を対象にボランティアで啓発してきた。平成９～１１年の３年間で８５０社程集めて、集合研修を行った。この時は、環境負荷削減をテーマとした。エコアクション２１（2004年版）を環境省の了承のもとで、3000部印刷し、兵庫県周辺の産業廃棄物協会等業界の拠点で、説明会を開催してきた。<br>　また、環境関連法令の改正に際しては、環境省や関係する省庁より配布用パンフレットを集め、各地で勉強会を開催した。これまで最高の配布量を行ったのはフロン回収破壊法に関するもので、２年間で8000部を配布した。この他、地球温暖化防止法・省エネ法・温対法・廃掃法・土対法・各リサイクル法等についてパンフレットの配布や勉強会を開催した。今年度は、廃掃法と化学物質関連法を中心にセミナーを開催する予定である。<br>　山下氏は、コンサルタントであれ、アドバイザーであれ、常にボランティアとして活動されている。企業経営をする上で、環境負荷を如何にして削減・維持するかを検討し、運用するシステムを企業に合わせ根付かせてきた。その場合、排出結果だけでなく、工程管理を追求し、上流（汚染源）から環境負荷削減を提案して、実施してきた。<br>　更に、法規制が施行されるに際し、企業者に規制値以下の数値を確保する設備に投資を促す提案をしてきた。この方式は、名古屋市の最終処分地・愛岐処理場改造工事等にも採用された。<br><br>３．企業勤務時代は水質汚染を発生しない腐食防止剤・防汚剤等を開発し、また大気汚染防止法としての燃焼技術を神戸商船大学と共同開発してきた。また佐賀大学との共同開発の成果である、河川・海岸の護岸工法・土砂流出防止法を発表し、西日本を始めとして全国に採用され、現在海外でも利用されている。 |

# 環境保全功労者功績内容等

| 氏名・年齢・住所・職業 | 功　績 |
|---|---|
| 山本　充弘<br>やまもと　みつひろ<br><br>社団法人海外環境協力センター参与 | １９９５年７月から１９９７年７月まで、JICA専門家としてメキシコ環境庁へ派遣、メキシコ環境研究研修センタープロジェクトの立ち上げに貢献した。また、２００３年８月から２００６年１０月までJICA専門家としてのベトナム派遣により、チーフアドバイザーとして水環境技術能力向上プロジェクトを立ち上げた。上記２回のJICA長期専門家としての派遣のほか、社団法人海外環境協力センター勤務時には、JICA短期専門家および環境省からの事業を通じ、海外環境協力の分野で貢献した。 |
| 吉岡　義正<br>よしおか　よしただ<br><br>大分大学教育福祉科学部教授 | 氏は、環境保健分野の専門家として、環境（化学物質対策）の分野に精通し、環境省が推進する化学物質行政に多大な貢献をいただいている。<br>平成１３年から中央環境審議会専門委員、平成１５年から現在まで同臨時委員として、化学物質行政に係る重要な事項の決定に積極的に関与されている。<br>審査規制制度小委員会では、化学物質関係法令の根幹をなす化学物質の審査及び規制等に関する法律（化審法）の平成１５年改正についてご審議いただき、特に環境中の生物への影響に着目した化学物質の審査・規制制度の導入にご尽力いただいた。<br>化学物質環境対策小委員会では、化学物質関係の法律の主要な柱を成す化学物質排出把握管理促進法(化管法)及び化審法の見直しを進めるべく、積極的に審議を行い、短期間のうちに化審法改正の方向性を示す「今後の化学物質環境対策の在り方について（答申）」の取りまとめに貢献された。<br>環境保健部会の審査小委員会においては、新規・既存化学物質の安全性審査・判定を実施しているが、委員会の初期の段階から生態毒性の観点より常に活発な審議をいただき、その功績は大なるものがある。<br>さらに平成１４年５月から、環境保健部長の諮問機関である「生態影響GLP評価検討会」に検討委員として参画され、また平成１６年２月からは座長として、化学物質の動植物毒性試験を実施する試験施設のGLP基準（Good Laboratory Practice：優良試験所基準）適合性の検討や、化学物質GLP制度の運用に必要となる専門的な検討にご尽力いただいている。特にGLP基準の適合性の確認にあたっては、環境庁時代（平成６年）より参画いただき，環境省職員の試験施設への査察時に専門的な見地からの基準適合の確認や試験施設への的確な指導・助言をいただいている。<br>また，生態毒性の推定システム（KATE）の開発において，スタンドアロン版を作り，そのプログラムの一部は本体（Web版）にも取り込まれるなど，化学物質管理における社会への貢献に高いものがある。<br>現在も、平成２１年５月に成立した改正化審法の円滑な運用に向け、審査等に関する科学的な検討や、改正法下でのリスク評価手法等に係る検討等において活発なご意見をいただくことで、適正な化学物質管理を通じた安全・安心な社会の構築に多大な貢献をいただいている。 |
| 吉川　廣和<br>よしかわ　ひろかず<br><br>DOWAホールディングス株式会社<br>代表取締役会長 | 同和鉱業は、１００年以上にわたって小坂鉱山から鉱石を採掘し、銅、亜鉛、金、銀等を製錬する事業を展開してきたが、経済環境の悪化により平成２年（１９９０年）に閉山する事態に至った。これは地元の小坂町にとっても基幹産業の消滅は、町の存亡の危機を意味し、その打開策は地域経済や地域社会の大きな関心を集めた。こうした中で、氏は、永年にわたって蓄積された製錬技術を廃棄物からの有用金属の抽出に活かし、循環ビジネスを中核とする事業形態への大きな転換を主導した。その結果、平成１９年（２００７年）度の１人当たり市町村民所得は、秋田県下でトップとなった。これは、環境技術を活用した経済発展という小沢ビジョンを地域において実現した極めて優れた事例であり、氏の功績は顕著である。<br>一方、廃棄物処理事業は、地元自治体や地域住民の方々の理解と協力が不可欠であり、氏は業態の転換に際して、廃棄物処理施設や処理の方法を徹底的にオープンにすることで、地元からの信頼感を勝ち得た。この点は、廃棄物処理事業の優良化の観点から、全国の廃棄物処理業者のモデルとなるものとして高く評価できる。<br>１９９７年１０月に小坂町で「世界鉱山サミット」が開催され、「小坂宣言」が採択された。この宣言には、鉱山から発展した地域社会は、今後共通して循環型社会の構築をめざす方針が盛り込まれた。氏は、小坂町との連携の下で、このサミットの準備、開催運営、宣言の取りまとめにリーダーシップを発揮した。<br>また、平成１８年のバーゼル条約ＣＯＰ８の際に開催された賢人会議では、高度な技術を有する処理事業者の立場から有識者の一人として招かれ、Ｅ－Wasteの適正処理及び資源回収の可能性について発表を行い、その取組の先進性や貢献について各国政府から高い評価と支持を得た。<br>平成１９年４月には、（社）日本経済団体連合会の環境安全委員会廃棄物・リサイクル部会長となり、産業界の取組の促進、あるいは行政との連携・調整に尽力されてきた。<br>平成１９年１０月から現在まで、中央環境審議会委員として、廃棄物リサイクル部会において、廃棄物政策の企画・立案に関する重要な審議に参画し、「廃棄物処理及び清掃に関する法律の一部を改正する法律案」に繋がる「廃棄物処理制度の見直しの方向性（意見具申）」（平成２１年１月）等に携わり、さらに、循環型社会計画部会において「第2次循環型社会形成推進基本計画」（平成２０年３月）の策定に携わり、引き続き、その後の「循環型社会形成推進基本計画」の進捗状況についての点検作業等を通じて、循環型社会形成の推進のために貢献されてきた。 |

# 地域環境保全功労者功績内容等

| 県　別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 功　　績 |
|---|---|---|
| 北海道 | 川田　淳<br>かわた　きよし<br><br>21世紀の音和を創る会名誉会長<br>特定非営利活動法人　トカプチの森理事長 | 氏は、開発や自然災害で荒廃した山林を緑豊かな森にしたいと、平成５年より、強いリーダーシップを発揮して十勝管内池田町の川田工業株式会社社有地４５０haに、「北緯４５度線の学習林」として国際帰化木の苗木５０種２万本を植栽し、その後も「天然樹海の復元林」構想と合わせて２００年計画で森林を造成することとして整備を進めており、平成２３年に「池田の森自然公園」として広く地域に開放することを予定している。<br>また、郷土の豊かな森林を守り育てて後世に伝えていくことに強い信念を持って、音更町音幌地区・昭和地区に残されている音更川河岸段丘林の保存と有効活用を目的とする「21世紀の音和を創る会」の設立に尽力し、その代表として、保健保安林の指定を受けるために奮励努力した。<br>同会は、関係地権者２８名が会員となり、延長６．５km、面積３．９haの段丘林を整備し、「音和の森自然公園」として地域に開放している。園内には、遊歩道のほか、移設した古民家・伊福部昭記念碑・馬の碑など町の歴史に関わる展示が多数あり、自然に親しみ歴史に触れる公園として活用されるなど、地域の環境・歴史・教育に大きく貢献している。<br>さらに、森林文化の創造と自然との共生を図るとともに自然環境の保全に寄与することを目的として、ＮＰＯ法人「トカプチの森」を設立して理事長となり、幅広い視点で森林の保全とその活用に取り組んでいる。法人は、「音和の森自然公園」と「池田の森自然公園」を主な活動の場として、一般住民を対象とした自然観察会や講習会、遊歩道の草刈りや清掃活動、展示物を活用した青少年の育成など、地域に密着した活動を活発に展開している。 |
| 青森県 | 八戸市立是川小学校父母と教師の会<br>はちのへしりつこれかわしょうがっこうふぼときょうしのかい<br><br>会長　水越　裕一<br>196名（会長1名、副会長4名、監事2名、書記2名、会計2名、会員185名） | 昭和６０年７月に資源物集団回収団体として八戸市に登録されて以来、長年にわたり紙類、缶類、びん類等の資源物集団回収を行っている。<br><br>回収は年８回程度実施しており、最近５年間の実績は<br>平成１７年度　実施回数 ７回　回収量 51,500kg<br>平成１８年度　８回　41,790kg<br>平成１９年度　８回　30,430kg<br>平成２０年度　８回　28,290kg<br>平成２１年度　８回　24,430kg<br>となっている。<br><br>資源物の回収は、保護者のみならず学区住民にも協力を呼びかけ、地域と一体になった活動となっている。<br>また、回収に当たっては、町内会と連携して、地域の全家庭にチラシを配布し、学区内29ヶ所に回収場所を設置するなど、学区全体の活動として定着している。<br>本団体の地域を取り込んだ継続的な資源回収活動は、地域のごみの減量化、再資源化などの推進及び意識啓発に貢献している。 |
| 岩手県 | 松園子ども自然観察園をきれいにする会<br>まつぞのこどもしぜんかんさつえんをきれいにするかい<br><br>代表　成瀬　健一<br>構成員数　60名（役員数　10名） | 当会は、四十四田ダム近くの住宅地内にあり、約２haの湿地となっている「松園子ども自然観察園」の保全に努め、身近に残った自然の大切さを訴えるなど、昭和６３年の会設立以来、永年にわたり自然保護に尽力した。<br>当会の主たる活動として定期的に開催している動植物の観察会は、会の設立から現在までに１８０回を数え、その参加者はのべ6,300人を超えており、地域の子どもたちはもとより幅広い年齢層から親しまれている。また、定期的な観察会のほか、小・中学校の総合学習に貢献するなど、地域の自然愛護意識の啓発に積極的に取り組んでいる。<br>このほか、観察園内の動植物調査で得た成果を基に、個々の動植物種に配慮した草刈りや枝打ち作業などの具体的な保護活動を展開しており、豊かな自然に触れ合える場として観察園の環境整備に努めている。 |

| 県別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 功績 |
| --- | --- | --- |
| 秋田県 | 川上　洵<br>かわかみ　まこと<br><br>秋田大学教授 | 平成１０年度から、廃棄物処理施設の設置等について技術的見地から審議する秋田県廃棄物処理施設技術専門委員に、土木工学の専門的見地から審議に加わり、有識者としての知見を活用した適切な意見具申をするなど、環境行政の推進に関して多大な貢献が認められる。<br>また、平成１２年度から、経営の悪化に伴い破産した能代産業廃棄物処理センターに係る環境保全対策を検討するために、秋田県廃棄物処理施設技術専門委員会内に設置された部会においては、当該処分場に係る既存遮水壁の有効性の調査研究や今後の環境保全対策に関する検討について専門的立場から参画し、後に県が策定した「廃特措置法に基づく特定支障除去等事業実施計画」に係る「中間報告書」の作成に尽力された。<br>さらに、平成１６年度からは、環境負荷の少ない持続可能な循環型社会の形成が喫緊の課題となっている中で、リサイクル製品の認定及び重要事項を調査審議する秋田県リサイクル製品認定審査委員会の委員に就任し、平成１８年度からは同会長として、土木工学の分野に関する深い理解と幅広い学識をもとに認定に係る答申をまとめ上げ、リサイクル製品の利用推進にも大きく貢献されている。 |
| 福島県 | 郡山市立三和小学校<br>こおりやましりつみわしょうがっこう<br><br>校長　仲村　巧<br>児童数97人、職員数14人（内訳：県職員12人＋市職員2人） | 平成元年から学区内にある笹原川の水生生物調査を永年にわたり継続して実施するなど、環境学習に積極的に取り組んでいる。<br>また、平成８年度から毎年度、５年生はこどもエコクラブに登録し、水生生物調査や周辺の環境保全活動などを実施している。これらの学習の成果は、壁新聞などにまとめて、学校行事の「三和っ子ワールド」や郡山市主催の「環境フェスティバル」などを通して全校児童・保護者をはじめ、他校の生徒や市民に向けて発表し、環境保全の普及啓発につながっている。<br>平成１７年３月には、福島県代表として「こどもエコクラブ全国フェスティバル２００５」に出場した。<br>また、平成１８年６月には、水・土壌環境保全活動功労者表彰（環境省水・大気環境局長表彰）及び“うつくしま、ふくしま。”環境顕彰（福島県知事感謝状）を受賞した。 |
| 福島県 | 会津若松市立川南小学校<br>あいづわかまつしりつかわなみしょうがっこう<br><br>校長　常法寺　萬人<br>児童　138名、教職員　12名 | 昭和５０年代から「かんな」の花をシンボルに、季節に応じた緑化運動を計画的に継続して実施し、毎年県学校関係緑化コンクールや県花いっぱい運動でも上位入賞をしている。また、緑の少年団に参加し、精力的に緑を愛し、守り、育てる活動を実施している。ＰＴＡとも連携し地域とともに地球環境保全・育成に努めている。<br>また、平成１９年度には、会津若松市で実施している「学校版環境ＩＳＯ」の認定を受け、教職員・児童がそれぞれに行動目標を設定し、３Ｒ運動等積極的に取り組んでいる。<br><br>●活動年数　約３０年<br>●年間活動日数　通年<br>●受賞歴<br>昭和５６年度　環境緑化コンクール知事賞<br>平成１３年度　学校緑化コンクール県知事賞<br>平成１３年度　県花いっぱいコンクール県知事賞<br>平成１４年度　学校緑化コンクール県知事賞（２年連続）<br>平成１５年度　学校環境緑化コンクール福島県教育長賞<br>平成１６年度　学校環境緑化コンクール関東森林局長賞<br>平成１９年度　緑の少年団活動実績成績発表大会県緑化推進委員会理事長賞<br>平成１９年度　会津若松市環境大賞<br>平成２０年度　学校環境緑化コンクール関東森林管理局賞<br>平成２１年度　“うつくしま、ふくしま。”環境顕彰 |
| 茨城県 | 菅生沼に親しむ会<br>すがおぬまにしたしむかい<br><br>代表　羽鳥　稔<br>代表1名、副代表2名、会員数87名 | 当会は、茨城県最大の自然環境保全地域（約２３２ha）で、白鳥の飛来地として知られる菅生沼の自然に親しみながらその素晴らしさを多くの人々に伝えることを目的として平成４年以来の長きに渡って、自然環境保全に関する知識の普及等の活動及び菅生沼の環境整備に係る活動を続けている。<br>自然環境保全に関する知識の普及にについては、野鳥草花観察会を月１回（毎月第１日曜日）実施し、観察した結果はイラストを添えながら会報「菅生沼ＮＥＷＳ」の中で紹介している。この月々の地道な活動は、平成１７年にイラスト２９６枚を掲載したガイドブック「すがおぬまの草と木」の刊行へとつながり、菅生沼周辺の植物について知りたい場合に役に立つものとして特に草や木の知識がまったくない初心者には大変喜ばれている。併せて、菅生沼周辺の全長４．２Kmにも及ぶ自然観察路に沿って樹木の名札付けを行うことにより、一般の人が自然に親しめる環境作りを図るといった取組も行っており、周辺を訪れる人々からは大変感謝されている。<br>さらに、小学校や他団体の講習会に会員を講師として派遣することで、自然環境保全に関する知識の普及を行い、次世代の環境教育に多大な貢献をしているほか、月１回会員の勉強会として、研究者を講師に招き専門的な知識を学ぶ機会を作るなど、会員の事故研鑽にも取り組んでいる。<br>菅生沼の環境整備に係る活動については、清掃の実施やゴミ投棄禁止の看板を設置することにより、菅生沼周辺の良好な環境の保持に努めているほか、毎年１月茨城県自然博物館主催による菅生沼のヨシ焼きに協力することにより、絶滅危惧植物であるタチスミレの復活を図るなど、貢献は甚大なものがある。 |

| 県　別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 功　績 |
|---|---|---|
| 群馬県 | 月夜野ホタルを守る会<br>つきよのほたるをまもるかい<br><br>会長　小林　一義<br>会長1名、副会長2名、理事若干名、書記会計1名（事務局）、支部長等若干名、顧問若干名、会員数229名（12支部） | １．ホタル生息地整備事業・・・ホタルの幼虫が上陸する前（４月）ホタル鑑賞会前（６月）ホタルの幼虫が孵化した後（９月）の生息状況に応じて草刈、枝払等を行い、ホタルが生息しやすい環境を整えている。<br><br>２．ホタル鑑賞会・ホタル等水棲生物供養・・・県内外から観光客が訪れるホタル鑑賞期間の１ヶ月間（６月中旬～７月中旬）は毎夜当番で、案内・監視を行っており、ホタル棲息地の環境保全に努めている。また、鑑賞初日には、供養碑「傍証の碑」で、ホタルの餌となるカワニナ等の水棲生物の供養を行っている。<br><br>３．ホタル・カワニナの保護育成活動・・・ホタルの幼虫期に大量に必要になるカワニナを飼育するための水槽を、平成１９年度から３ヵ年計画で更新する事業を実施。（「上組を元気にする会」と協力。更新先は地域の小学校）<br><br>４．自然・環境保護の啓発活動・・・ホタルに関するポスターコンクールを実施。２１年度は１６２点の応募があり、入選者の作品は町の文化祭、役場庁舎に展示している。また、最優秀の作品は、次年度のホタルうちわの原画とし、町内をはじめとする事業所の協賛により８千枚を作成し、ホタルの里での鑑賞者に配布している。<br><br>　近年、環境問題が全国的あるいは地球規模で叫ばれるようになり、生活環境のバロ―メーターともいわれている「ホタル」を保護・育成していくことは、地域の環境保全を守る上でも重要なことである。当団体は、長年にわたりホタルの発生分布調査を始め、発生地の雑草除去や保護ポスターコンクールの実施など、「ホタル」の保護・育成を通じて環境保全活動及び地域住民の環境に関する意識啓発活動を推進しており、他の団体の模範となっている。 |
| 埼玉県 | 財団法人トトロのふるさと財団<br>ざいだんほうじんととろのふるさとざいだん<br><br>理事長　安藤聡彦<br>理事12名、監事2名、評議員15名、事務局員14名（2010年4月1日現在）<br>会員1,334名（2010年2月末現在） | 経済成長と共に狭山丘陵周辺の雑木林が開発されるようになり、市民団体などが中心となって自然保護運動を進めてきた。平成２年に市民団体が話し合い、寄付を募って土地を買い取り保全する「トトロのふるさと基金委員会」を発足させた。その活動目的は、狭山丘陵とその周辺地域の自然環境を保全・活用すること及び里山景観の保全である。その後、平成１０年に同委員会が発展改組して財団法人トトロのふるさと財団となり現在にいたる。<br>今までに計１１か所のトラスト地（合計面積約1.94ha）を取得している。トラスト地取得以外にも、里山管理、環境調査、環境教育、環境保全、美化清掃などボランティア活動を行っている。トラスト地で取得した雑木林を環境教育や里山保全等に活用しながら、里山保全の必要性を訴えている。<br>また、平成２１年１０月には、埼玉県・所沢市・西武鉄道(株)・地元保護団体・トトロ財団の間で、菩提樹池とその周辺の緑（約1.24ha）を守る協定を締結した。当協定では、環境教育プログラムの提供や動植物の環境モニタリング調査等の保全管理活動への参加協力及び、菩提樹池キャンペーン（寄付金）によるトラスト地の拡大に努めていくこととしている。 |
| 千葉県 | 美しい手賀沼を愛する市民の連合会<br>うつくしいてがぬまをあいするしみんのれんごうかい<br><br>代表者　八鍬　雅子<br>会員団体数24（約10,000名） | 　「沼と共に生きる周辺地域の自然･生活環境のより良きあり方を学習し、美しい手賀沼をよみがえらせること」を目的に、平成7年に会を設立し、14年間にわたり活動を行ってきた。現在加入団体数は、24団体、約10,000名が会員として活動している。その活動は多岐に渡っており、行政との協働事業としては、１　手賀沼流域の柏地区・我孫子地区・下手賀地区の3会場での、市民参加の清掃活動を計画･運営、２　水生植物再生事業として、手賀沼流域の生態系を復活させるための調査･研究の実施、３　手賀沼流域フォーラムでは、啓発事業である流域フォーラムの運営を行政から市民実行委員会主導に移し、手賀沼流域各市・村ごとの啓発イベントを開催するなど事務局を運営、４　水循環回復行動計画での協働調査の実施、５　手賀沼水環境保全協議会構成員として協議会会議等に積極的に参加するなど、多くの事業を行政と協働で実施してきた。また、会の独自事業として、HPによる地域住民への情報提供や、手賀沼エコマラソンでの手賀沼浄化の啓発チラシの配付、学習会・講演会の実施、流域市民環境団体とのネットワーク作りの拡大を推進している。このように同会の多方面にわたる長年の活動は、周辺地域の環境行政や環境活動に大いに貢献している。 |

| 県　別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 功　　　　績 |
|---|---|---|
| 神奈川県 | 中村　道也<br>なかむら　みちなり<br><br>特定非営利活動法人　丹沢自然保護協会理事長 | ・４０年以上にわたり、神奈川県のみならず首都圏の自然の宝庫であり、貴重な緑である丹沢大山の自然環境の保全再生に向けた活動を行っている。行政やNPO等が連携した取り組みにも積極的に参加し、自然環境保全行政の推進に協力している。<br>・昭和４８年に設立され、民間団体、企業等による丹沢大山のゴミの持ち帰り運動を展開している「丹沢大山クリーンピア２１（登山者へのゴミ袋の配布、登山道の清掃活動。）」の中心的な存在であり、平成８年からは副会長に就任するなど熱心に活動している。<br>・平成５年からコリドー(回廊)の必要性を唱えて環境庁（当時）等行政に働きかけ、このことは後に全国の国有林に緑の回廊が設置されるきっかけとなった。現在、関東森林管理局が主催する丹沢緑の回廊モニタリング調査検討会の委員として活躍している。<br>・ブナの立ち枯れ等深刻化する丹沢大山の自然環境の問題に取り組むために、平成５年から民間団体、行政、専門家等が実施した動植物等の自然環境に関する総合的な調査「丹沢大山自然環境総合調査」の実行委員会に委員として参加し、中心的な委員の1人として活動した。この調査結果を踏まえて神奈川県に提言された丹沢山地の自然環境の保全に関するマスタープラン策定の必要性を受けて、神奈川県では平成１１年３月に「丹沢大山保全計画」を策定したところである。<br>・その後、平成１６年から行われた丹沢大山の現状調査「丹沢大山総合調査」の実行委員会にも委員として参加し、大いに貢献した。（本調査の結果を受けて、丹沢大山保全計画を「丹沢大山自然再生計画」に平成１９年３月改定。）<br>・現在、丹沢大山の自然再生事業の協議機関として設立された「丹沢大山自然再生委員会」の委員として、引き続き精力的に活動している。<br>・また、平成１３年から神奈川県森林審議会委員に、平成１５年から神奈川県自然環境保全審議会委員にそれぞれ就任し、森林法の施行や自然環境保全全般に関する重要事項の審議に携わるなど環境保全行政の推進に協力している。<br>以上、中村道也氏は多年環境保全に関し普及啓発活動、その他公共的活動を行った者及び多年環境行政の推進に協力した者に該当する。 |
| 富山県 | 佐伯　康博<br>さいき　やすひろ<br><br>弁護士 | 昭和６３年から平成２１年まで２１年にわたり富山県公害審査会委員を務め、弁護士としての知見を生かして、公害紛争の迅速かつ適正な解決に多大な貢献をした。<br>特に、ダム排砂事業水質汚濁被害防止請求事件（平成１３年～１４年）では、調停委員長として、当事者間の意見調整や説得、調停委員長私案の提示を行うなど、当事者間の合意形成に向けて尽力した。<br><br>また、昭和６３年から現在まで延べ１９年にわたり富山県環境審議会委員を務め、富山県の環境行政の推進に寄与している。<br>特に、平成３年に富山県公害対策審議会（現富山県環境審議会）土壌汚染対策事業費用負担小委員会の委員として、黒部地域農用地土壌汚染対策地域や、神通川流域農用地土壌汚染対策地域（第３次地区）に係る費用負担計画の審議に携わり、適正かつ妥当な計画となるよう尽力した。 |
| 石川県 | 田畠　由隆<br>たばた　よしたか<br><br>ななかリサイクルセンター次長 | 昭和５６年７月１日七尾鹿島広域圏事務組合作業員として採用以来、一般廃棄物処理施設（最終処分場）に従事し、埋立ごみの細分化及び埋立工法、水処理の水質向上に努力し、平成５年１１月北部埋立場、中央埋立場の建設に係わり、迷惑施設から必要施設への脱皮と周辺住民に安心してもらえる施設として尽力した。 |
| 愛知県 | 梅村　武夫<br>うめむら　たけお<br><br>名古屋大学名誉教授 | 専門の森林環境資源学の知見を活かし、以下の審議会の適正な運営を行い、環境保全行政の推進に尽力された。<br><br>（愛知県環境影響評価審査会）<br>平成１１年４月に愛知県環境影響評価条例に基づき設置された愛知県環境影響評価審査会で、平成１１年４月から平成２１年３月までの１０年にわたり、委員として大規模な開発案件における環境影響評価についての審査に貢献している。 |

| 県　別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 功　　績 |
|---|---|---|
| 愛知県 | 足立　守<br>あだち　まもる<br><br>名古屋大学博物館特任教授 | 専門の地質学に関する知見を活かし、以下の審議会等の適正な運営に尽力され、環境保全行政の推進に尽力された。<br><br>（愛知県自然環境保全審議会）<br>平成８年３月から平成１３年３月まで５年１月にわたり、愛知県自然環境保全審議会委員として地質学に係る専門的事項の審議に貢献した。<br><br>（愛知県自然環境保全審議会温泉部会）<br>平成９年５月から平成１３年３月まで３年１０月にわたり、愛知県自然環境保全審議会温泉部会委員として温泉掘削に係る許認可等、温泉行政に関する地質学に係る専門的事項の審議に貢献した。<br><br>（愛知県環境審議会）<br>平成１３年４月から愛知県環境審議会委員に就任し、環境保全に関する専門的な調査・審議に貢献している。<br><br>（愛知県環境審議会温泉部会）<br>平成１３年４月から愛知県環境審議会委員温泉部会委員として温泉掘削に係る許認可等、温泉行政に関する地質学に係る専門的事項の審議に貢献し、さらに平成１４年８月からは同審議会の温泉部会長となり、同部会のとりまとめに尽力している。 |
| 京都府 | 綾部市立物部小学校<br>あやべしりつものべしょうがっこう<br><br>校長　福井　圭介<br>校長1名、教頭1名、教諭7名、児童68名 | 環境について自分で考え、活動する児童の育成を目的とし、学校だけでなく、家庭、地域と連携して１年生から６年生を通し、人間と環境のかかわりについて考え、実践する活動を展開し、環境教育を総合的かつ積極的に活動を展開している。毎日の生活の中で、環境を守り育てることの大切さを学ぶことで、人にも物にもやさしい行動ができるようになった。また、地域と連携して活動を行ったため、学校だけでなく、家庭、地域へと３Ｒの推進、地球温暖化防止の取組の輪が広がった。最大の効果は、環境を学ぶことは、豊かな心の育成に結びつくこと。<br>【活動内容】<br>●自然環境保全活動<br>「わくわくツアー」として、地域のいろいろな達人と一緒に地域の自然を観察することで、自然の大切さ不思議を学びふるさとを再発見する。また、地域に流れている犀川の水の調査を行う中で、川の汚れの原因を調べ、自分たちができることを考え、家庭での生活の見直しにつながっている。また、川の汚れの原因のひとつに不法投棄があり、その防止について地域への啓発活動もしている。<br>●地球温暖化防止活動<br>①「自然エネルギーの利用活動」<br>太陽光、風力発電機を設置して、観察池の浄化装置の電源に使用し、電気の大切さを体験。学校、家庭での省エネの実践につなげている。<br>②「グリーンカーテン」の取組<br>暑い夏を涼しくすごすため、朝顔やゴーヤを植え、７０ｍのグリーンカーテンを校舎一面に作り、みどりのクールビズを実践している。また、サーモグラフィーで実証実験を行い、涼しさ実感する学習をおこなった。<br>③夏休み省エネチャレンジへの全校児童参加<br>全校の児童とその家族みんなで、夏休み１週間省エネに取り組み、わたしたちの生活が地球温暖化につながっていることを学習し、地球温暖化を防止するために私たちが生活の中でできることがたくさんあるということを確認でき、今後の実践につながった。<br>●３Ｒ推進活動<br>①「お道具箱」のプレゼント<br>上級生が新１年生入学時に使用した後の段ボールを半分に切り、古包装紙を持ち寄り、段ボールに飾り付けをしてプレゼントをしている。市販のお道具箱でなく、上級生が「物を大切に使ってほしい」と願いをこめてプレゼントするので、６年間潰れることなく、大切に使われる。物を大切にする取り組みとして次に受け継がれている。<br>②「アルミ缶の回収」<br>校区内にある障がい者施設のアルミ缶回収の取組に協力することと３Ｒの推進を目的に学校にアルミ缶回収ボックスを設置し回収活動を実施している。環境保全の高揚だけでなく障害者への理解も深まり、人にやさしい心を育てる取組になっている。<br>●「学校発　環境にやさしい地域つくり」<br>①エコフェスタの開催・エコ通信の配付<br>学校でのエコ活動の取組を地域に情報発信するため、地域の方に環境体験や活動の発表を行い、コミュニケーションをしながら地域の方一緒に取り組んでいる。また、エコ通信を校区全戸に配付し、学校の取組を通して環境の大切さを地域に呼びかけ地域と連携して環境保全の取組を広げている。 |

| 県　別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 功　績 |
|---|---|---|
| 大阪府 | 大学生協　大阪・和歌山地域センター学生委員会<br>だいがくせいきょうおおさかわかやまちいきせんたーがくせいいいんかい<br><br>学生委員長　橋爪　伸和<br>役員37名　構成員15生協 | 平成２１年６月　おおさか環境賞　大賞を受賞<br>受賞理由：大学生協の学生委員会が中心となってプロジェクトを立ち上げ、内側にフィルムが貼られ外側の紙箱部分をリサイクルできる弁当容器の「ホッかる」の回収を進めるため、回収率アップの取り組みを競い合うペナントレースを実施したり、回収した「ホッかる」の紙部分を再利用して、大学生活で使える文具（ファイル・写真立て等）を企業と協力して開発するなど、自主的でユニークな取り組みを実施されている点が評価されました。 |
| 兵庫県 | ひょうご森のインストラクター会<br>ひょうごもりのいんすとらくたーかい<br><br>会長　田中　義則 | 兵庫県では、「県民共通の財産」である森林を、県民みんなで守るため、「県民総参加の森づくり」を進めており、そのため、動植物の観察や森林・林業体験、野外活動、都市と農山村との交流等の機会を充実することに加え、森と親しみ、森を楽しむ方法や森づくりの大切さを教える人材（指導者）を一般県民の中から育成することとし、平成１０年度から市町長の推薦を受けた者を対象に「森のインストラクター養成講座」を実施し、その中から「森のインストラクター」として２０１名を認定（知事）してきた。※森のインストラクター養成講座（平成１０～１９年度　各２０名育成）<br>平成１０年度の制度発足とともに、初代の森のインストラクターたちが、それぞれの活動の交流と指導力の向上を図るため、平成１１年５月９日に開催された「’９９ひょうご森の祭典」（市川町リフレッシュパーク）において、「ひょうご森のインストラクター会」を発足。県民が森と親しみ、森の大切さに対する理解を深めるため、県、各市町、小中学校、緑の少年団、子ども会等からの指導要請を受けて、森林における体験学習を中心に指導活動を行うなど、環境学習の推進に多大な貢献をしている（※毎年度　延べ指導日2,000～2,300日　指導人数：５～１０万人）<br><br>１「ひょうご森のまつり」における「緑の少年団の集い」や兵庫県緑の少年団活動発表大会「森林レクリエーション」の環境学習指導・現地指導に尽力した。<br>県、市町、（社）兵庫県緑化推進協会が毎年、緑と森の大切さを啓発するために開催している「ひょうご森のまつり」において実施している「緑の少年団の集い」（毎年度500名）や県緑の少年団連盟、（社）兵庫県緑化推進協会が毎年、開催している緑の少年団の「活動発表大会」などにおいて、森林観察会、木工クラフト等の環境学習指導を行っている。（「緑の少年団の集い」は平成19年度まで指導。）<br><br>２小学校、県出先機関等からの要請を受けて「環境体験事業」の現地指導に尽力した。<br>県教育委員会、小学校、県出先機関が連携して、小学校３年生を対象に実施している「環境体験事業」において、グリーンサポーターとして、里山林・学校林における下草刈り・間伐などの里山学習体験活動の現地指導を行っている。<br><br>３各地域の森づくりイベントにおける環境学習会の現地指導に尽力した。<br>毎年、開催されている県立三木山森林公園等のイベントや地域記念植樹、緑の少年団の地区交流活動等において、青少年・親子を対象に木工クラフトやきのこ観察、植物や野鳥観察、森の遊びなどを通じて環境学習を実施している。<br><br>４野生生物の生息環境の整備に取り組んだ。<br>平成１５年２月から野生のサギと地域住民との間で軋轢が生じていた三木市の営巣地において、「人里近くに住む野生生物と人との共生」をテーマに、サギ類営巣地の整備及び今後の問題解決のための整備マニュアルの作成を行った。<br><br>５森林ボランティア活動としての自然環境調査に協力した。<br>平成１６年から県立三木山森林公園からの要請を受けて、専門知識・技術の面から公園内の自然環境（植生・鳥類・昆虫類など）の基本調査に協力している。<br><br>６環境学習・教育の推進のためひょうご森のインストラクター会１０周年記念フォーラムを実施<br>会発足１０周年を記念して、主に青少年を対象に取り組んできた環境学習・教育の成果を踏まえ、小中学校の教員等を対象に、フォーラムを２１年１月２５日、県立三木山森林公園で開催し、環境学習・教育における「グリーンサポーターの新たな関わり方」を発信した。 |

| 県　別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 功　績 |
| --- | --- | --- |
| 兵庫県 | 特定非営利活動法人　ひょうご森の倶楽部<br>とくていひえいりかつどうほうじん　ひょうごもりのくらぶ<br>神戸市中央区中山手通4-1-11　山手ユージハウス201号<br>会長　福田　正<br>会長 | １ひょうご森の倶楽部は、「地球的規模で進行する自然環境の悪化に対して、その荒廃を食い止め、種の存続につながる生物多様性を維持し、良好な自然環境を維持・保全するための森林整備に関する事業を行い、環境の保全に寄予する」ことを目的として、平成県下22の活動地（21年２月末現在）において、地域住民等と共に活動し環境保全活動に貢献している。<br><br>２神戸市君影小学校学校林の活動地では、子供たちの学習の場として再生することを目指して整備にも取り組んでおり、子供たちや近隣住民に、林内での多様な体験活動等を通じて環境や生活と森林との関係について学ぶ機会を与えるとともに、持続可能な学校林管理手法モデルの構築に尽力している。<br><br>３養父町奥米地の活動地では、「小さいものの生命を大事にすることが、私たちの生命を大切にすることにつながる」として、「ほたる」をキーワードに環境保全、地域づくりに取り組んでいる集落近くにある。ここでは、ヒノキの人工林で、枝打ちや間伐などを行い、土壌がむきだしの森林を植生豊かな森に移行させ、地域の取組に寄与し、環境の向上に努めている。<br><br>４加古川市行常の活動地では、竹が密集し、枯竹が倒れ、林内は暗く「醜い竹林」になりつつあったのを、地域住民と一体となり、「美しい竹林」を取り戻すため、月に1回のペースで手入れ作業に取り組み、環境美化だけでなく地域の活性化にも寄与している。<br><br>５三木市三木山の活動地では、他の活動地を先行して14年前から県立人と自然の博物館研究員の指導を受けながら植生調査を実施し、生物多様性や環境保全を配慮した森林整備を行っている。<br><br>６森林ボランティア活動とは無縁の団体に対し、森林整備による環境保全について働きかけ、植樹などを協働で行い、環境保全の推進に貢献している。<br><br>７兵庫県が実施している「森林ボランティア講座」（年５回、100名受講）を平成17年度から企画・運営・現地指導を一手に引き受けるなど、「県民総参加の森づくり」の推進に多大に貢献をしている。 |
| 奈良県 | 榊原　和彦<br>さかきばら　かずひこ<br><br>大阪産業大学工学部教授 | 1998年に奈良県環境審議会委員に就任以来、環境デザイン、環境建設工学の専門的な立場から指導助言を行っていただいた。<br>さらに、2008年からは同審議会の会長に就任いただくなど、本県の環境行政の推進に多大な貢献をされている。<br>この間、本県環境行政の基本方向を示す「新奈良県環境総合計画」の策定などについて、長年の経験と調整力を活かし、審議会意見のとりまとめにご尽力いただいた。<br><br>本県では他に、2003年から奈良県古都風致審議会の委員にご就任いただき、「神奈備の郷、川づくり計画」や「あやめ池風致地区の種別の一部変更」など、その他多くの審議において、特に歴史的な景観の自然を活かしたあり方について貴重なご意見を数多くいただき、奈良県の歴史的風土の保存と良好な風致景観の保全が図られるよう、各課題の発展的な解決に向けてご尽力いただいている。<br><br>また、2005年からは大規模小売店舗立地審議会委員に就任いただき、大型店の出店による店舗周辺の生活環境保持の観点から、特に、環境デザインの専門家として、駐車場需要の充足その他による周辺交通等、立地後の交通流動の予測を通して、適切な出店計画に対する意見及び指導をいただき、地域経済及び地域社会の健全な発展並びに県民生活の向上に大きな功績を果たしていただいている。<br><br>このように、幅広い分野で活躍されており、また、長年に渡り環境行政等の推進にご尽力いただいた業績は、表彰に値するものである。 |
| 和歌山県 | 吉村　英夫<br>よしむら　ひでお<br>68歳<br>和歌山市久保丁3-5<br>社団法人　和歌山県産業廃棄物協会副会長 | 昭和６２年１０月　社団法人和歌山県産業廃棄物協会の設立時の発起人として、また、発足当時からの協会役員として、産業廃棄物業界の黎明期といえる時代に県内の産業廃棄物処理業界の組織強化に尽力し、いわゆる静脈産業である業界のネガティブイメージの払拭のため当協会のみならず、県内の廃棄物処理業界全体の地位向上に努めた。<br>さらに、自ら経営している会社においても業務内容の改善を実施し、汚泥の肥料化などリサイクル対策にも積極的に取り組んでいる。<br>また、二酸化炭素の排出削減のために設備改善にも取り組むなど地球温暖化対策や、地域の環境保全対策に多大の貢献を行っている。 |

| 県　別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 功　　績 |
|---|---|---|
| 和歌山県 | 橋本市衛生自治会<br>はしもとしえいせいじちかい<br><br>会長　井田　典昭<br>委員24名　構成員　全区長107名 | 橋本市衛生自治会は、橋本市内にある１０７区の区長が、環境や衛生問題に区自ら取り組もうと立ち上げられた組織である。<br>特に生ごみの堆肥化の推進は平成１５年から力を入れ、家庭から出る生ごみは各家庭で自家処理しようと呼び掛け、耕作地を持った家庭には自家処理できるようコンポストや醗酵促進剤や容器を貸与するなどし、推進してきた。<br>また、耕作地のない家庭の生ごみを処理するため、耕作地のある家庭が耕作地のない家庭から出る生ごみの堆肥化に取り組んだ結果、可燃ごみの収集回数を通常の２回から１回に減らせている地区は６９区、9,793世帯（全世帯の約４割）まで増えている。<br>可燃ごみ量も、平成１５年度（13,461トン）と平成２０年度（11,500トン）とを比較すると1,961トン減量されている。<br>橋本市では、ごみの減量と週１回収集地区の増加により、収集コースの見直しを行い、可燃ごみの収集車２台を減車することができ、経費削減とＣＯ２削減効果を図ることができている。 |
| 島根県 | 吉川　通彦<br>きっかわ　みちひこ<br><br>島根県環境審議会会長 | 環境問題や島根県の法定審議事項を審議する環境審議会のまとめ役である会長を５期１０年にわたって務め、その間島根県環境基本計画、しまね循環型社会推進計画、宍道湖及び中海に係る湖沼水質保全計画の策定に多大の功績があった。<br>さらに、環境保全の重要課題である地球温暖化対策について、島根県地球温暖化対策推進計画の策定、島根県地球温暖化対策の推進に尽力した。<br>このように多年にわたり島根県環境行政の推進を行った功績は多大である。<br>また、県民が自主的、積極的に参加する環境保全活動の推進を図り、県民の環境意識の高揚に尽力するなど環境保全に関する功績が著しい。 |
| 岡山県 | 岡山県立矢掛高等学校「川レンジャー」<br>おかやまけんりつやかげこうとうがっこう　かわれんじゃー<br><br>教諭　室　貴由輝<br>生徒有志らによるボランティア　50名程度 | 昨今の生活様式の変化により、水質汚濁、環境の変化等によって、河川にすむ生物が生息しにくくなっている状況の中、町の施設のポケット水族館での貴重な川魚の保護、飼育を手がけ、また、絶滅危惧種のスイゲンゼニタナゴの生息調査や増殖活動を行い繁殖を成功させるなど、自然環境の保護に尽力している。<br>さらに、小田川、美山川、星田川の河川清掃、ゴミ捨て禁止看板の設置、インターネットによる環境美化等の情報発信、幼稚園での環境啓発活動など、活発な活動を通じて、地域に根ざしたコミュニティづくりにも大きく寄与しているところである。<br>こうした活動は、これから益々生活環境が多様化する中で、自然環境保護の大切さを呼びかけることとなり、地域環境整備の意識高揚に大きく貢献するものである。 |
| 広島県 | 呉市立野路中切小学校<br>くれしりつのろなかぎりしょうがっこう<br><br>校長　讃岐　尚芳<br>児童25名、教職員8名 | ・平成１４年度から平成１６年度までの３年間「省エネルギー教育推進モデル校」（財団法人省エネルギーセンターによる選定）として、３年間共通テーマ「拡げよう！野路中切の省エネ運動」と設定し、校内で省エネ活動の実践を開始する。<br><br>・平成１７年度から平成１９年度までの３年間「エネルギー教育実践校」（エネルギー環境教育情報センターによる選定）として、それまでの活動をエネルギー問題や環境問題との関連からとらえ直し、活動内容の充実を図る。特に総合的な学習の時間や生活科の授業を中心に、多様な体験活動や外部人材の積極的な活動を図り、活動を発展させる。<br><br>・また、各年度、教育研究会を開催し、地域に活動の成果を公開していった。最終年の平成１９年度には公民館でこれまで取組んできた活動の総まとめとして実践報告会を開催し、多くの地域住民が参加し好評を得る。<br><br>・平成２０年度からは「エネルギー教育シニア校」（エネルギー環境教育情報センターによる選定）となり，これまで取組んできた活動を継続するとともに，学校で取組んでいる省エネ活動について，広域に発信していくことを活動の重点においている。学校独自の実践報告会の開催や，市の環境会議に積極的に参加するなど地域の省エネリーダーとして評価されている。<br><br>・また、地域の環境保全団体とも連携し、省エネ活動を中心に環境保全にかかる活動に活発に取組んでいる。 |

| 県　別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 功　　績 |
|---|---|---|
| 広島県 | 三次市立青河小学校<br>みよししりつあおがしょうがっこう<br><br>校長　下田　康誠<br>児童26名、教職員8名 | ・平成３年頃小似川（こいがわ）の清掃活動を開始する。<br><br>・平成５年から川遊びを通して河川の水質調査や水生生物調査を行う。また、住民グループ「青河ホタルの里づくりの会」を中心とした地域の協力で、ホタルの住む町づくりに取組む。<br><br>・平成１２年から水質浄化のための調査・河川浄化のために炭入れを開始する。児童が水質浄化の方法を調査する。炭の浄化作用に着目し,地域住民と一緒に竹炭を焼き,川の中に設置する。<br><br>・平成１７年にホタルの幼虫を小似川に放流する。<br><br>・平成１８年から小似川に鮎の稚魚を放流する。環境ポスターに取組む。廃油石鹸・アクリルたわし作成に取組む。<br><br>・第１回中国地区小学校特別活動・第６３回広島県小学校特別活動研究大会にて取組を発表する。<br><br>・平成２０年から地域の協力を得て、種まき・田植え・稲刈り・収穫祭などの「米作り体験学習」の取組を開始する。米作りに欠かせない「水」について学習し、汚染防止についての知識を高める。また、ホタルの「定点観測」の取組を始める。<br><br>・平成２１年に「環境を守る啓発活動」として、児童会が、ごみを捨てないように呼びかける看板を作り、通学路に設置する。また、三次市主催の「みよし環境フェスタ」にて、保健環境委員会が取組を発表する。 |
| 山口県 | 中尾　勝實<br>なかお　かつみ<br><br>山口大学名誉教授 | 多年にわたり本県の環境行政の重点事項を審議する山口県公害対策審議会や山口県環境審議会の委員、部会長、会長として、その幅広い経験と知識をもとに本県の環境行政全般にわたり多大なる貢献をされている。<br><br>１　山口県公害対策審議会の委員として<br>湖沼水質保全対策、航空機騒音に係る環境基準類型の指定方針、産業廃棄物処理計画、環境基本条例の制定、騒音、振動、悪臭の地域指定の見直しなどに携わり、大気、水質等環境保全全般にわたり尽力された。<br><br>２　山口県環境審議会環境企画部会長として<br>環境影響評価制度のあり方についての審議検討を中心となって実施し、山口県環境影響評価条例の制定に貢献した。<br>また、山口県産業廃棄物処理計画や山口県廃棄物処理計画の審議検討を行い、廃棄物の排出抑制、減量化、リサイクルの推進による循環型社会の形成推進に尽力された。<br><br>３　山口県環境審議会会長として<br>地球温暖化対策と循環型社会の形成という、現在最も注目されている環境問題に対する本県の施策の基盤となる、山口県地球温暖化対策地域推進計画と山口県循環型社会形成推進計画の策定に際し、審議会会長として、卓越した指導力により、その策定に尽力したなど、本県の重要な環境施策の推進に協力、貢献された。<br><br>４　周南市環境審議会委員、会長として<br>企業の製造設備の新設や増設に関する公害防止対策の審議や火力発電所建設に関する環境影響評価の審議等について、委員及び会長として尽力された。 |

| 県　別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 功　　績 |
|---|---|---|
| 徳島県 | 大塚化学株式会社　徳島工場<br>おおつかかがくかぶしきかいしゃ　とくしまこうじょう<br><br>徳島工場長　大西　淳一<br>従業員400名 | 【環境学習への貢献】<br>徳島県の行う、県民対象の「とくしま環境学講座」での現地研修や、地元の高校・大学（薬学部）の講義の一貫としての現場見学・体験学習など、工場における環境・エネルギー対策の学習機会の場を提供するとともに、地域の人づくりを地域の企業が支える「環境首都　あどぷと・エコスクール」事業にも参画し、地域の中学生による総合学習の時間を活用した「エネルギー・廃棄物問題」の学習に対し、講師等の派遣や調査の支援などを行っている。<br><br>【環境活動の積極的展開】<br>事業所周辺はもとより、国道１１号線、今切港湾及び月見ヶ丘海浜公園などにおいて、清掃ボランティア活動を実施するとともに、立地する工業団地が一体となって通勤時におけるＣＯ２削減や渋滞解消を目指す「エコ通勤のための交通社会実験（県民・事業者・行政が一体となって環境活動を推進するための中核組織・とくしま環境県民会議の主催）」について、社員一人ひとりが身近にできるＣＯ２削減を考える絶好の機会と捉え、積極的に取り組んでいる。<br><br>【工場における先進的な環境対策の実施】<br>従来から、ISO 14001認証取得、製品物流面でのグループ企業との協働によるモーダルシフト・エコドライブ・共同配送、また、オフィス面でのエコスタイル等に取り組んでいる。併せて、エネルギー原単位の改善に加えて、工場全体のエネルギーの削減の観点から、2007年4月からは、重油によるコージェネレーションに替えて、四国初の都市ガス（天然ガス）によるガスタービンコージェネレーションを図り、二酸化炭素排出量はもとより、窒素酸化物や硫黄酸化物の大幅な削減に取り組むとともに、導入にあたっては、本県初と考えられる「ＥＳＣＯ事業」方式の活用を図るほか、ＮＥＤＯの支援も受けている。<br>また、同システム導入の取り組みのＰＲや、他社からの見学の積極的受け入れなどを通じて、こうしたシステムや導入手法などの地域での普及にも貢献している。 |
| 福岡県 | 筑紫野市婦人会<br>ちくしのしふじんかい<br><br>会長　萩野　房子<br>役員　30人　構成員　600人 | 1　古紙回収運動について<br>　行政区による回収となる平成１７年度まで継続し、現在の全市的古紙回収運動の先駆的な役割を果たした。<br><br>2　廃油石けん作りについて<br>　廃油石けん作りを通して、環境保護の大切さを住民や、次世代を担う子ども達に普及啓発を行っている。<br>　また、河川の浄化運動の普及啓発も併せて行っている。<br><br>3　資源ゴミの回収について<br>　アルミ缶や不要となった携帯電話等の資源ゴミの回収を行い、企業や施設と連携をとりながら有効活用を図っている。<br><br>4　ゴミ減量推進活動について<br>　婦人会内に「レジ袋減らし隊」を組織し、スーパーマーケット等でのマイバック持参を呼びかけ、ゴミ減量の啓発を行っている。 |
| 熊本県 | 大住　和佑<br>おおすみ　かずこ | 熊本の地下水を次世代に引き継ぐため、複数の環境団体を設立するだけでなく、専門家、行政、農林漁業者等と幅広いパートナーシップを構築し、地下水涵養、節水、地下水問題等、多方面での活動を展開し、現在の地下水保全市民活動の黎明期を担う。また、「エコパートナーくまもと」での水と緑WG活動、白川中流域農産物の消費促進に向けた啓発活動も実施し、「地下水と経済の健全な循環」の確立を目指して現在も精力的に地下水保全をめぐる諸問題解決に向け活動を続けている。<br>【活動期間】<br>２４年３ヶ月（昭和６１年１月～平成２２年３月）<br>【主な活動】<br>・昭和６１年、トリクロロエチレンによる地下水汚染報告の報道をきっかけに、熊本の地下水を次世代に引き継ぐため、複数の環境団体を設立するだけでなく、熊本市と協働した節水市民運動、様々な環境体験・学習ツアーの企画等、多方面にわたる環境保全・普及啓発活動を展開している。<br>【活動の効果】<br>・環境団体、農業団体、生産者、行政など幅広い多様なパートナーシップによる活動の影響、地下水涵養、節水等の効果は、熊本市域、白川中流域など広域に及んでいる。<br>【今後の継続性】<br>・節水アドバイザーとしての節水市民活動の推進、「エコパートナーくまもと」での水と緑WG活動、白川中流域産農産物の消費促進の更なる充実を目指し、現在も活動中である。 |

| 県　別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 功　　績 |
| --- | --- | --- |
| 熊本県 | 環不知火プランニング<br>かんしらぬいぷらんにんぐ<br><br>理事長　吉永　利夫<br>会員26名　職員7名 | 水俣市教育旅行誘致促進協議会の設立を機に、教育旅行受入施設の関係者により設立。水俣病をはじめ、水俣・芦北の自然、歴史、暮らしなど多様な地域素材を活用した体験型教育旅行プログラムを創出し、環境に配慮した共生（もやい）に基づく地域づくりに寄与してきた。地域課題の解決として市民ガイド・市民コーディネーターづくりの推進を提案し、県の「水俣・芦北地域環境フィールドミュージアム事業」、水俣市の「水俣環境大学」等との連携を含め、環境保全や水俣病被害者の暮らしを守る活動の充実を図っている。<br>【活動期間】<br>８年７ヶ月（平成１３年９月～平成２２年３月現在）<br>【主な活動】<br>・毎年度の事業計画書をもとに、学習プログラムの開発、教育研修等の企画誘致、地域振興策の企画・立案等が計画的に見直され、実施されている。また、国・県・市等からの委託事業も多数有り、環境保全に限らず、地域自治や活性化にかんする民間・行政と連携した地域課題の解決のための仕組みづくりに貢献している。<br>【活動の効果】<br>・修学旅行生等の受入活動は、津奈木町や鹿児島県出水市にも広がっており、事業の実施が水俣病の教訓を発信し、市民と水俣病被害者との交流、広域的な経済効果・地域活性化にも繋がっている。<br>【今後の継続性】<br>・県との「水俣・芦北地域環境フィールドミュージアム事業」、水俣市との「水俣環境大学」の設立等と連携し、今後も環境保護や水俣病被害者の暮らしを守る活動に寄与していく。また、地域課題の解決として、継続した誘致活動や市民ガイド・市民コーディネーター養成を提案し、窓口業務を含めて推進していく予定である。 |
| 熊本県 | 株式会社　ティア<br>かぶしきかいしゃ　てぃあ<br><br>代表取締役　元岡　健二<br>構成員　30名 | 持続可能な食の循環の実現を目指し、食の安全と地産地消の普及を通じた環境と経済の共生に向けた企業活動を実践している。食の安全と環境保全型農業に取り組む生産者から直接仕入れた食材を調理したメニューを提供する「自然派ビュッフェ」の業態を確立、普及させた。地産地消による規格外商品（農水産物）の積極的使用によるフードマイレージ及び廃棄物の削減、環境保全と食の安全を目的とした料理教室や後継者育成のための「ティア・食の共育アカデミー」の開催など幅広い企業活動を実施している。<br>【活動期間】<br>１２年０ヶ月（平成１０年４月～平成２２年３月現在）<br>【主な活動】<br>①地産地消によるフードマイレージ・CO２削減に貢献②規格外商品（農水産物）を積極的に使用することで、廃棄物の削減に貢献③有機無農薬・無添加物にこだわった食材の提供④後継者の育成、省エネ、廃棄物削減、食の安全等を目的とし、毎月「ティア・食の共育アカデミー及び出前講座」を実施⑤「ご縁のもったいない運動基金」とし、マイ用品を持参した利用者には料金を５円引きし、その５円を環境団体の活動支援のため寄付している。<br>【活動の効果】<br>・県内３店舗の来店者数は、１００万人にのぼる。<br>【今後の継続性】<br>・ティアを拠点施設とし、車で３０分の移動圏内に１０店舗程度の食堂を出店するビジネスモデルを考え、全国に点在するグループ店にも同様のスタイルを展開させ、生産者支援・食の環境保全を進める計画である。 |
| 大分県 | 特定非営利活動法人　緑の工房ななぐらす<br>とくていひえいりかつどうほうじん　みどりのこうぼうななぐらす<br><br>理事長　葛西　満里子<br>役員10名　会員数64名 | 大分県地球温暖化防止活動推進センターとして、地球温暖化の現状と対策の重要性についての啓発活動及び広報活動を担い、地球温暖化防止活動推進員や民間団体の活動を支援するなど、地球温暖化対策の推進に貢献した。<br>また、「ななぐらす自然学校」や「ななぐらすの村きらり」など、自然とのふれあいをテーマとした体験プログラムの企画・運営や小中学校における野外活動の指導を通して、環境教育の推進に貢献した。<br>さらに、森林の維持管理をボランティアを募って行う「２１世紀久住の森の応援団」などの植林活動により、自然環境保護の推進に貢献した。<br>その他にも「手作り箸袋」の普及など「マイ箸運動」に取り組み、身近にできる環境保全活動の推進に取り組む功績は大なるものがある。 |
| 鹿児島県 | 中内　孝雄<br>なかうち　たかお<br><br>元鹿児島県環境生活部参事 | 昭和４６年入庁から昭和５６年まで、本県の環境行政の発足時に特に水質分析体制の確立、分析精度の向上に率先して取り組むなど、試験研究機関の中堅として精力的に励みその基礎を築いた。<br>昭和６２年から平成２年には、当時水質悪化が進行しつつあった鶴田ダムや鰻池に係る環境基準の類型指定や第２期池田湖水質環境管理計画の策定に行政の中心となって携わり、総合的な水質保全対策の推進に貢献した。平成１６年には、閉鎖的な内湾で富栄養化が懸念されている鹿児島湾の水質環境管理計画について、基礎調査から解析、計画立案、関係機関との調整・協議など統括責任者として陣頭指揮し、新たに第４期鹿児島湾ブルー計画を策定し各種水質保全施策を推進するなどその功績は顕著である。<br>また、水環境保全意識の高揚を目的としたキャンペーンやセミナー・水環境学習会を精力的に実施するなど県民の水環境保全意識の向上に努めたほか、廃棄物の適正処理や不法投棄防止対策の推進にも技術的面の責任者をして多大な貢献があった。 |

| 県　別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 功　　　績 |
|---|---|---|
| 横浜市 | 日本の竹ファンクラブ<br>にほんのたけふぁんくらぶ<br><br>代表　平石　真司<br>構成員　196名（平成21年2月現在） | 放置竹林問題を解決するため、市民参加による多様なプログラムを作り、手入れの出来なくなった竹林や荒廃した竹林の保全と活用を推進する。<br>①定例的な竹林保全活動として、小机城趾の森（１２回）、中井町竹林（９回）、横浜国際プール林欲の庭（９回）、愛川町竹林（４回）、こどもの国（２２回）<br>②竹の学校開講：竹林管理コース（９日間コース）、竹垣コース（３日間コース）、ミニ門松作り（１日体験コース）<br>③出前講座・講師派遣（Ｈ１８年６回、Ｈ１９年１２回、Ｈ２０年６回）、横浜開港１５０周年での「竹の海原」制作プロジェクト技術支援（８回）<br><br>【平成２１年度横浜環境活動賞を受賞しての感想から】<br>かつて横浜は関東でも有数の筍の産地で美しい竹林が里山の風景を彩っていました。<br>しかし、現在は手入れされず放置された竹林がいたるところで見られます。<br>日本の竹ファンクラブでは　このような竹林を市民の手で保全し、竹林を活用することで文化的な景観を再生することを目的に１９９９年に発足しました。<br>現在市内３ヶ所と市外に３ヶ所のあわせて６ヶ所の竹を間伐したり、筍を間引きしたりしてきれいな竹林の保全に取り組んでいます。<br>主な活動プロジェクトには「竹林の里親制度」、「竹取協力隊」、「竹の学校」、「出前講座」、「都市農村交流事業」などがあり、また「たけのこ祭り」や「竹灯籠まつり」、「竹細工教室」など１年を通して様々なイベントも企画して、市民の皆様に竹の魅力や、管理の大切さをお伝えしています。<br>今回の受賞を機にさらに多くの市民に竹の魅力をお伝えし、もっともっと多くの地域で環境保全の取り組みを普及していきたいと思います。 |
| 横浜市 | 新井町公園愛護会<br>あらいちょうこうえんあいごかい<br><br>代表者　金子　久夫<br>構成員　28名（平成20年12月現在） | 愛護会会員の得意分野を活かしながら公園の環境整備と、愛護会会員の親睦及び地域（自治会・近隣小学校）との交流を行っている。<br>①毎月第二第四日曜日の愛護会の定例会活動（毎回参加者１２名）<br>②小中学校対象の竹の観察と竹の子掘り（２７２名）<br>③新井町自治会主催竹の子掘り（１３９名）<br>④保土ヶ谷昴幼稚園・近隣老人会参加の流しそうめん（１００名）<br>⑤小中学校と環境整備と焼き芋大会（１１１名）<br>⑥造園業者から寄贈されたお茶の木を、小学校・ＰＴＡとともに管理<br><br>【平成２１年度横浜環境活動賞を受賞しての感想から】<br>開園と同時に発足した新井町公園愛護会は、モットーとして「その時できる者が　出来る事を　無理せず　永く続けてやる」そうして自分達の生活の一部として公園を愛し、見守り育てていく努力を続けてきました。<br>　そのことが結果的には公園の環境整備と公園の利用者が、安心して楽しく散策する事ができ、携わる私達会員の親睦と、なによりも心と体の両面から健康面で大きな恩恵に浴する事が出来ているのだと思います。そして、今回の受賞に繋がったことを会員一同喜んでおります。<br>　今後もこの活動は続けられていきますが、発足した頃行事に参加したお子さん達も、父親や母親になられたのではないでしょうか。その人達が私達の仲間になり、その子供達と行事や散策を楽しんだりする日が必ず来るであろうことを願っております。 |

| 県　別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 功　　　績 |
| --- | --- | --- |
| 横浜市 | こどものためのオープンハウス<br>こどものためのおーぷんはうす<br><br>代表者　伊藤　牧子<br>構成員　45名（平成21年2月現在） | 太陽の光・熱や風などの自然を活かした住まい方による心地よさと楽しさを伝え、自らの住生活を心地よく創りだす仲間を増やします。体感によって自然の恵みを実感できる場作り、具体的に住環境を学ぶ教育プログラム・教材の開発や、自然の恵みを体感出来るようなワークショップの企画・実施を行っています。<br>【環境まちづくり協働事業（市立本町小学校）との取り組み】<br>１８年度：学校の暖かい・寒い所について調べ、暖かさと寒さについて理解を深め、「明るく暖かい」をテーマに段ボールの家作りを行った。<br>１９年度：緑のカーテンを育てながら暑さ涼しさについて、「冬の教室の明るさと暖かさ」をテーマに明るさと暖かさの関係について学んだ。<br>２０年度：「住まいをとおして環境を考える」をテーマに、世界の国々の伝統的な住まいを通じて、気候風土に応じた様々な工夫を学び、興味を持った住まいを自分で作り、自然を活かした工夫について考えた。<br><br>【平成21年度横浜環境活動賞を受賞しての感想から】<br>「一番身近な環境である《住まい》を、楽しみながら自然を活かして気持ちよく快適にできることを知り、実践する仲間が増えることが未来の地球環境を守ることに繋がるはずだ！」との思いに賛同した様々な人が集り、1998年から活動してきました。<br>　当初は、活動を通して自らが気づき発見する日々でした。近年は、そこで蓄積されたノウハウを伝える活動を行うようになってきました。<br>　１０年間、私たちが一番大事にしてきたことは『体感して学ぶ』ということです。体感に知識が伴った時に人は心から納得し、行動を変えることができると思うからです。私たちが目指してきた体験と知識を繋げることができる環境教育プログラムは、老若男女を問わず誰にでも楽しく興味を持ってもらえる、環境改革の早道と感じています。<br>　横浜を中心に活動をしてきた私達がこの賞を頂くことができて大変嬉しく思っています。人の気づきから行動を促すことは、時間がかかり成果の見えにくいことですが、そんな活動に意義を認め、協働・協力して下さった皆様方に感謝、御礼申し上げます。<br>　今後は、学校の環境学習への支援などを通じて、環境モデル都市である横浜の「新しい環境」を支える人材を育む力になっていきたいと考えています。 |
| 京都市 | 京都市立蜂ヶ岡中学校<br>きょうとしりつはちがおかちゅうがっこう<br><br>校長　井上　方志<br>教職員　46名、生徒　664名 | ①空き缶回収と国際支援活動（平成１１年から継続）<br>　生徒会の環境委員会が中心となってアルミ缶の回収やプルタブの回収活動を平成１１年から継続して行っている。アルミ缶を回収して換金したお金を国際支援金としてベトナム等の恵まれない子どもたちに送り続けている。また、アルミ缶のリサイクルを通して環境問題解決に貢献したとして、平成１５年と２１年にアルミ缶リサイクル協会から表彰されている。<br>②あじさいプロジェクト（平成１６年から継続）<br>　全校生徒が１人一鉢あじさいを栽培し、６月の花咲く時期に，地域の商店街と協賛し「あじさい祭」を実施している。地域の祭りとして住民が大きな期待を寄せ、中学生と地域の方々が触れ合う絶好の機会となっており、また、地域の環境保全に貢献するだけでなく、商店街の活性化を図る取組にもなっている。１９年度からは、嵐電協働緑化プロジェクトとして、校区内の駅等にあじさいを展示し、観光客に対してもアピールを行っている。常盤駅周辺にアジサイの植栽を行いアジサイの名勝作り活動を継続している。また、校区内の小学校に自分たちが育てたあじさいを植える活動等、地域にアジサイの植栽を広げている。<br>③緑のカーテン（平成１７年度から継続）<br>　教室を緑化し、室温も下げる「みどりのカーテン」を校舎壁面を利用して実施している。みどりのカーテンにはつる性のゴーヤを使用し、収穫したゴーヤは夏の健康野菜として調理実習で使用するなど、食育の観点からも活用している。また、$CO_2$の吸収量や壁面温度を赤外線カメラで観察し、温暖化防止への効果も検証している。１９年度からは，屋上緑化も実施しており、サツマイモの袋栽培により最上階の教室の室温を下げるなどの効果が出ている。さらに、保育園・幼稚園に出前を行うなど、地域にみどりのカーテンを広げている。<br>④様々な学習の機会を捉えた環境学習（平成１６年度から継続）<br>　環境カルタや食育カルタの制作、剪定木を利用したエコベンチの作成、シイタケ栽培の学習、教科学習での環境学習等を行っている。また、生徒会の取組としては、環境委員会を中心とした環境の取組、生徒会本部の環境学習及び報告会など、学校教育全般で環境教育を進めている。<br>⑤完全自然循環型のカブトムシの家（平成２１年度から）<br>　校内のクヌギ林（２４本）を活用した環境学習を行うカブトムシの家を制作した。クヌギ林の剪定木を椎茸栽培の原木に活用して椎茸を収穫し、３年後、ぼろぼろになった原木（ほだ木）をカブトムシのえさとして使い、最後はカブトムシの糞となって土に返る自然循環を体験できる施設として活用している。 |

| 県別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 功績 |
| --- | --- | --- |
| 京都市 | 京都市朱雀第四小学校<br>きょうとしりつすざくだいよんしょうがっこう<br><br>校長　津知　隆一<br>教職員　27名、児童　298名 | 京都議定書発効の地であり、環境モデル都市である本市においては、現在、全市立学校・幼稚園における環境宣言の策定をはじめ、ＫＥＳ学校版「環境にやさしい学校」の認証取得の推進、緑のカーテンの整備等、様々な環境教育に関わる取組を推進している。そのような中、京都市立朱雀第四小学校においては、これまでから継続して地域団体等とも連携を図り、ビオトープの整備や清掃活動等を実施するなど、環境保全活動を展開している。<br>学校教育目標の一つに環境教育を掲げ、人間の生き方を学ぶ環境教育の推進、家庭や地域との協同活動、省エネルギーの取組などの活動を通して、自然と人間の関係を知るところから、自然と共生し、自然を再生するところまで発展させてきた。<br>また平成２１年度からは、環境省から学校エコ改修と環境教育事業の指定を受け、学校施設の改修をとおして、学校関係者、児童、地域の方や事業者とともに、環境について意識を高める取組を展開している。<br>これまでの先進的な環境教育の取組は、研究発表を通じて全市へ波及しており、本市の環境教育の推進にあたっても多大な貢献をしている。こうした活動が認められ、これまでに「京都環境賞特別賞（環境教育賞）」や「京都府環境保全功労者表彰」などを受賞している。 |
| 堺市 | 堺植物同好会<br>さかいしょくぶつどうこうかい<br><br>会長　奥中　登<br>構成員　約100名 | 〈主な活動〉<br>植物観察会、調査研究、研修会、会誌発行等<br><br>〈プロフィール〉<br>・1959年に植物に興味をもつ有志が設立した自主的な団体であり、小中学校が参加できる植物観察会や植物写真展を開催するなど、永年にわたり、堺における緑の普及啓発活動に大きく寄与。<br>・設立以降、自然環境の保全を目的とし、堺市内の植物を調査し、「堺市植物目録」をはじめとする各種刊行物をまとめる。本目録は、堺市レッドリスト選定の際の基本資料としても活用されている。<br>・様々な活動実績は、堺の自然環境保全、古樹名木の指定、市民等への植物に関する普及啓発の材料として大いに活用されている。<br><br>〈表彰歴〉<br>1989年　市制100周年記念表彰受賞（多年にわたる市政への貢献）<br>1999年　大阪府知事表彰受賞（第２３回全国育樹祭にて表彰）<br>2008年　国土交通大臣表彰受賞（都市緑化月間「ひろげよう　育てよう　みどりの都市」全国大会にて表彰<br>2008年　堺市功績者（功績団体）表彰受賞<br>2008年　堺市千の花広場コンクール金賞受賞 |
| 神戸市 | 沖村　孝<br>おきむら　たかし<br><br>財団法人建設工学研究所常務理事<br>神戸大学名誉教授 | 多年にわたり、神戸市の環境影響評価制度における第三者機関である「神戸市環境影響評価審査会」の委員（平成9年～現在）として、主に地盤・地形・地下水の分野を中心とした、厳正な調査審議に尽力されている。さらに、実際の事業実施による環境影響についての審議のみならず、市における環境アセスメントの技術・精度の向上のため、環境影響評価技術指針の改正や、各種アセスメントマニュアルの作成にもご尽力をいただいている。<br>また、特に、平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災からの復興、及びその後の防災対策・環境保全に関しても幅広い見識からのご指導・ご助言を頂いており、「神戸市復興計画審議会」委員（平成7年）、「兵庫県阪神・淡路大震災復興推進会議」委員（平成10年～平成12年）、「神戸市復興・活性化推進懇話会」委員（平成15年～現在）、「神戸市都市計画審議会」委員（平成16年～平成18年）、「神戸市新たなビジョン（中期計画）推進会議」委員（平成18年～現在）、「神戸市総合基本計画審議会」委員（平成21年～現在）などを歴任されている他、「神戸の地盤・減災研究会」・「新・神戸の地盤・減災研究会」において研究委員会委員長（平成11年～平成19年）及び会長（平成19年～平成21年）を務められ、最新の地理情報システム(ＧＩＳ)と地盤情報、地盤解析システム、さらに震災被害情報をパソコンで容易に操作できるようにした画期的なシステムである「神戸ＪＩＢＡＮＫＵＮ」の開発とそれを活用した調査研究活動に尽力された。<br>このように、行政とも連携し、地域における自然災害の防止又は減災及び環境保全に関する研究活動に尽力されるとともに、その幅広い見識に基づき、行政施策への防災面・環境面からの指導・助言を行うことによって、その成果をおおいに社会に還元し、多大な功績を残されている。 |

| 県　別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 功　　績 |
|---|---|---|
| 神戸市 | 天井川を美しくする会<br>てんじょうがわをうつくしくするかい<br><br>会長　住本　禮隆<br>役員数　7名、会員　26名 | 天井川は須磨アルプスを源流とした河川で、当会はこの美しい天井川の自然を守り、よりこの川に親しんでもらうために沿川住民が集まり平成4年に発足した。以来、地域の関係諸団体と協力して生きもの定着のためのビオトープ作り、川の生き物観察会、クリーンハイキング等を開催し、地域住民に対する水辺の保全意識と環境保全活動を普及している。また、ホタルを育成している団体へのカワニナの提供や、近隣の小学校との協力によるクリーンハイキングの標語募集、最優秀作品の標語の横断幕作成および川岸への掲示等、啓蒙啓発や地域活動支援としての活動を行っている。その他、自然環境保護にかかわる団体とも交流を行い情報交換などを行っている。このような活動を通じて地域住民相互の交流も深まっており、「天井川の自然環境と清流を守り、川にすむ生きものを根付かせ愛される川づくりを進めよう」という地域住民の意識の高揚に大きく貢献し、他団体の模範となっている。 |
| 福岡市 | 学校法人　ふたば幼稚園<br>がっこうほうじん　ふたばようちえん<br><br>園長　小崎　孝子<br>教諭（3～4人）・幼児（40～50人） | ○ごみや空き缶拾いを通して地域の環境美化に貢献。また、道路や浜辺を歩いていてもごみが落ちていたら、必ず立ち止まって拾うという習慣が自然に身に付いている。<br>○家庭でも生ごみを堆肥化し、家庭菜園に取り組むなど保護者にも影響を与えている。<br>○教室から出るときは、子どもたちが自ら気づいて電気を消すなど省エネ活動が身に付いている。<br>○園行事で環境をテーマにプログラムを展開することにより保護者の環境への意識向上に役立っている。 |
| 関東地方環境事務所 | 塚田　眞弘<br>つかだ　まさひろ<br><br>県立環境と人間のふれあい館館長 | 県立環境と人間のふれあい館の館長を７年余の長きにわたり努め、その間同館の設立趣旨である、新潟水俣病の経験と教訓を後世に伝えるとともに、水の視点から環境を大切にする意識を育み、公害の根絶と環境保全の重要性を認識してもらいたいという取組を積極的に進めてこられました。<br><br>とりわけ、新潟水俣病問題は、阿賀野川流域で発生が確認されてから４５年を経過し、豊かな自然環境が汚染されるとともに、人々の健康や人と人との絆が損なわれるなど、深刻な爪痕を残したまま現在に至っている深刻な問題です。<br><br>このような歴史的な観点と現代的な課題という二面性を併せ持つ難しい新潟水俣病問題を正面から受け止め、水俣病に関する文献や関係資料を丹念に調査研究し、その研究成果の蓄積を図るとともに、率先して各種講座の講師を努めるなど、新潟水俣病の教訓を後世に伝える教育の推進や啓発活動の充実に多大な貢献をされております。<br><br>また、新潟県に限らず広く熊本県など他の水俣病発生地域を含めた関係機関・団体の関係者や水俣病患者の方々との交流に努め、水俣病発生地域間及び水俣病の関係者・研究者との交流ネットワークの中心となるなど、水俣病問題に関して多大な功績を残されております。 |
| 関東地方環境事務所 | 松木　茂<br>まつき　しげる<br><br>特定非営利法人杉並環境カウンセラー協議会副理事長・専務理事 | １．平成１１年、杉並環境カウンセラー協議会、東京環境カウンセラー団体連合会の設立にあたって、発起人の一人となり、会則の制定など尽力した。設立後は事務局長として、両会を運営し、講演会、環境学習会などの諸行事を積極的、かつ円滑に開催してきた。また、環境カウンセラー全国連合会の設立にあたって、事務局を担当し、難局を乗り切り、設立させた。杉並環境カウンセラー協議会のNPO法人認証取得に尽力し、NPO法人設立後は会の副理事長兼専務理事として、会の運営に中心的役割を果たし、会の強固な基盤づくりや、他の環境カウンセラー団体の活性化に貢献している。さらに、後輩を指導し環境保全の普及啓発活動等を主導してきた。行政の各種委員会委員を務めるなど行政にも貢献している。　そして、環境カウンセラーを組織化し、その活動を発展の軌道に乗せ、各団体の発展に著しく貢献した。それらの活動は、環境カウンセラーの存在感を高め、信頼できる環境団体として社会に認められるようになった。その功績は大きなものがある。<br>２．エコアクション２１が認証登録制になる以前、環境活動評価プログラムとして発足し、平成１６年、パイロット事業として試行したが、一貫して積極的に協力してきた。さらに、平成１７年には、地域事務局東京中央の開設に尽力し、認証登録事業を軌道に乗せ、事業者の環境への取組を普及させる基盤とした。エコアクション２１地域事務局の設立はエコアクション２１そのものだけでなく、NPO活動発展の土台を作ったものとして大きな意義がある。 |

| 県　別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 功　　　　績 |
|---|---|---|
| 関東地方環境事務所 | 特定非営利活動法人環境カウンセラー千葉県協議会<br>とくていひえいりかつどうほうじんかんきょうかうんせらーちばけんきょうぎかい<br><br>理事長　國廣　隆紀<br>役員（理事20名、監事3名）、会員数127名 | 平成１０年　：　第１回企業環境セミナーを開催し、県内企業に対し環境マネジメントシステムへの取組に啓発を開始し、以後、毎年開催して多くの企業にはたらきかけている<br>平成１３年～１５年　：　千葉市の省エネナビによる市民の省エネ推進事業に協力し、講習会を開催し省エネナビを貸与した市民に省エネ生活のフォローアップ<br>平成１５年　：　千葉県とNPOとの協働事業として、「地球温暖化防止活動推進員の養成・ブラッシュアップのための研修会の開催」を提案し採択され、県内3会場で研修会を開催し、千葉県内の地球温暖化防止活動推進員の新たな養成とすでに登録されている推進員のブラッシュアップに貢献<br>平成１６年　：　東京電力との協働で、千葉市内で県民を対象に、「地球温暖化対策学習会」及び「地球環境フォーラム千葉2004」を開催し、「すぐに取り組む地球温暖化対策」を啓発<br>平成１７年　：　EA21の審査登録制度施行に伴い、EA21地域事務局千葉県環境財団に非常勤事務局員、運営委員、判定委員を派遣し、EA21地域事務局の運営に協力している<br>平成１７年　：　EA21の審査登録制度施行に伴い、県内での普及推進のため、千葉県とNPOとの協働事業として、「EA21普及セミナー」の開催を提案し採択され、県内4会場でセミナーを開催し県内中小企業に取り組みを啓発し、以後、毎年2～3回普及セミナーを開催<br>平成１８年　：　千葉県NPOパワーアップ補助金事業に、県内の高校に対する環境学習授業を提案し採択され、テキストの作成及び授業を行い「生きた環境学習」を展開し、以後、毎年1～2校の授業を展開<br>平成２１年　：　千葉県とNPOとの協働事業として、「浄化槽使用者に対する水質保全に関する啓発講習会の実施」を提案し採択され、県内１１会場で講習会を開催し、千葉県内の浄化槽使用者に啓発 |
| 関東地方環境事務所 | 財団法人世田谷トラストまちづくり<br>ざいだんほうじんせたがやとらすとまちづくり<br><br>理事長　佐藤　洋<br><br>役員（理事17名、監事2名）、賛助会員数4,707名 | １．トラスト運動<br>平成元年（旧トラスト協会設立）以来、世田谷区内の緑地や樹林地等２３箇所を、整備・維持管理し、また市民緑地等の自主事業によって民間のみどりを一般公開することにより、世田谷区内の自然環境を保全するとともに、市民の環境保全意識の普及啓蒙に努めている。（平成９年全国初の緑地管理機構指定）<br><br>２．トラスト運動などの普及啓蒙<br>平成元年より自然観察会やバードウォッチング、まちの生きものしらべその他各種環境に関するイベントを開催している他、ボランティア団体の実施するイベント等の協働開催などにより、市民のトラスト運動や環境保全意識の普及啓蒙に努めている。<br>（参考）<br>自然観察会　　　　：毎年５回開催（年平均約１５０人参加）<br>バードウォッチング：毎年５回開催（年平均約３００人参加）<br>まちの生きものしらべ：夏休みの期間（年平均約３００人参加）<br>その他のイベント　：毎年１０回程度開催（年平均約１０，０００人参加）<br><br>３．ボランティアや地域のコーディネーターの養成・支援<br>平成３年より、ボランティアや地域のコーディネーターの養成講座を開催する他、世田谷区内のボランティア団体（２５団体）に活動の場の提供や資材の貸し出し等の支援を行うことによりボランティアの支援・養成に努めている。<br>（参考）<br>養成講座：毎年約４０回開催（年平均約２５０人参加）<br><br>４．その他の活動<br>環境調査として世田谷区内の国分寺崖線の野鳥調査、昆虫調査、植物調査等を市民の参加を得ながら実施（平成８年～平成１６年）し、現在は自然環境調査データとしてＧＩＳ等で市民が閲覧検索できるようシステム開発を進めている。<br>この他、緑化推進事業として、緑化講習会の開催や公共道路に隣接する民有地に花苗の助成等をしている。 |

| 県　別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 功　　績 |
|---|---|---|
| 関東地方環境事務所 | 特定非営利活動法人　銀座ミツバチプロジェクト<br>とくていひえいりかつどうほうじん　ぎんざみつばちぷろじぇくと<br><br>理事長　高安　和夫<br>役員（理事3名、監事1名）、正会員30名、賛助会員50名、団体賛助会員30団体 | 特定非営利活動法人銀座ミツバチプロジェクトは、養蜂を核として、都市と自然の共生のため、銀座を中心に、生物多様性を担保した環境未来都市にすることを目標に以下の様々な活動を行っている。<br><br>１．環境や自然、農業をコンセプトとした街づくりのための活動<br>（１）平成１５～１８年にわたり、シンポジウムを４２回開催し、１，５００名以上の参加者と議論を重ね、市民が期待するのは銀座の街を「経済」と「文化」と「環境」が共存する「環境型未来都市」であることを確認。<br><br>（２）平成１５～２１年にわたり、都会の学校跡地での農業体験講座や地域への農業体験ツアー、シンポジウム等を約５０回開催（参加者約２，７００名以上）し、自然や環境を取り入れた街づくりを発信。<br><br>２．銀座ミツバチプロジェクトの活動<br>（１）ファーム・エイド銀座<br>環境保全型農業に取り組む生産者を応援し、都市生活者が地域の自然や環境を自分のこととして考える活動として、平成１８年から銀座において、蜂蜜の採取や無農薬米作りの体験等を行っている。（合計１１回開催、約６，０００人以上来場）<br><br>（２）銀座ビーガーデン（銀座里山計画）<br>平成１９年からミツバチの住む紙パルプ会館の屋上８０㎡の花壇から始まり、現在は、８箇所の屋上約１，０００㎡と連携し、花畑、ハーブ園、野菜畑、田んぼが出来ている。<br>また、多くの方が屋上農業が出来るよう合計２３回の屋上農業口座を開催し、約２８０名が参加した。<br><br>（３）ミツバチプロジェクトの反響<br>当該団体のミツバチを象徴とした環境や自然を取り入れた街づくりは、多くの地域から注目を集め、品川区中延商店街、目黒区自由が丘商店街、練馬区江古田、恵比寿、日本橋などの地域では、当該団体の指導を受け、養蜂を核とした街づくりが始まっている。さらに都会だけではなく、福島県や岡山県新庄村などでは、ミツバチと環境保全型農業による地域再生に向けた行動を起こしている。 |
| 関東地方環境事務所 | 甲府市山城地区四ツ葉女性学級<br>こうふしやましろちくよつばじょせいがっきゅう<br><br>学級長　小林　甲斐子<br>役員　学級長・副学級長・会計<br>構成員数25名 | 平成５年、甲府市山城地区四ツ葉女性学級設立。四ツ葉女性学級の目的は、山城地区の兼業農家の主婦が農家の蚕室を利用し、環境問題についての取組活動を展開していくことを目的とする（平均年齢７３歳活力十分）。設立以来、環境実践活動及び普及啓発を行っている。会員の中には、山梨県知事から委嘱された山梨県地球温暖化防止活動推進員として数人が活躍している。これらに伴い、知名度とともに活動実績も向上している。主な活動は、環境フェスティバルへの積極的な参加（年１回）、廃食用由での廃油石鹸づくりの実践普及（年１０回）、環境家計簿の取組（指導含み年３回）、エコ料理教室（年５回）、エコをテーマとした講演会（年３回）等、近年においては、緑のカーテン教室（育苗等含め年２５回）、平成２１年度下期には、地域住民の積極的な参加を求め、環境問題の学習として、そば殻枕づくりの体験（参加者６０名）等、さまざまな実践活動及び普及啓発に大きく貢献している。<br>平成２０年には、やまなし環境財団・若宮賞表彰の授与。また、平成２２年３月２２日開催第３回全国緑のカーテンフォーラム実行委員も務めた。<br>山梨県、甲府市等の行政との環境分野においても積極的に協力推進活動を展開しており、今後の活躍も期待できる。 |
| 中部地方環境事務所 | 加々美　孝男<br>かがみ　たかお<br><br>環境カウンセラー | 公務員として関東信越で施設建設管理、環境保全業務等に長年従事し、定年後その経験と知識を活かし「環境カウンセラーズ信州」県会長「長野県環境審議会」委員などを歴任し、自治体、学校等へ環境学習実施と普及に努めた。環境カウンセラーとして、地球温暖化防止、野生動物保護、森林育成等の自然環境保全研修へ積極的に参加。ライフワークとして冬の水辺の渡り鳥（白鳥、カモ等）の生態調査を平成４年以来、１０月中旬初飛来から翌年４月上旬北帰完了までほとんど毎日３時間以上飛来地へ行き、継続中の日誌等を記録し、飛来地へ来訪する人たちの観察指導につとめ、野生動物との共生の大切さの理解を求めた。特に老人施設の人たちを引率し来訪する介護員の方に、観察した夜は癒し効果か不思議に老人たちが和やかで明るくなると感謝された。研修の状況は、環境カウンセラーズ信州はじめ県の各部及び研究機関の開催した関連研修会に参加し、「研さん活動」小中学校の環境学習指導は継続して開催し、環境学習指導を子どもと老人を主な対象にして実施した。<br>また、中部地方環境事務所が平成21年度に実施した「環境カウンセラー研修（中部地区）」においては、それまでの経験を基に事例発表「野生生物との共生について」と題して講師を行うなど、中部地方環境事務所の環境保全活動に対して積極的に参加し活躍している。 |

| 県　別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 功　　績 |
|---|---|---|
| 九州地方環境事務所 | 徳冨　一敏<br>とくとみ　かずとし<br><br>財団法人<br>水俣市振興公社水俣市南部もやい直しセンター館館長 | 徳冨氏は、平成８年からもやい直しセンター建設オープンワークショップ（もやい広場）に障害者団体わかば会の代表者として参加し、水俣市民として、又、障害者としての目線で積極的に発言しワークショップの中心的人物でした。<br>その後、平成９年のもやい直しセンターのオープンに伴い、南部もやい直しセンターの館長に応募し、平成８年１１月に財団法人水俣市振興公社　おれんじ館館長として採用され現在に至ります。<br>その間、おれんじ館館長として、１２年に渡り地域住民の皆さんの協力と理解を得ながら、もやい直し事業に取り組み地域の皆さんや水俣病を含む障害者の皆さんと親睦をふかめてきました。<br>今では、館長を訪ねて来館される胎児性水俣病の患者さんや子供たちも多く、話し相手や相談にのる機会も増え、おれんじ館のイベントにもよく参加していただけるようになり、館長の地道な声かけや気さくな人柄が受け入れられ実を結んできたのではないかと思います。 |
| 九州地方環境事務所 | 中西　康博<br>なかにし　やすひろ<br><br>東京農業大学国際食料情報学部国際農業開発学科准教授 | 宮古島をメインフィールドとして、サンゴ石灰岩島嶼を対象とした、農業に由来する硝酸性窒素による地下水汚染に関するメカニズムの解明、サンゴ礁生態系への影響、地下水水質保全対策の総合的な研究などを進めてきた。<br>この間、国営伊良部地区環境情報協議会委員長、宮古島市地下水保全対策学術委員会副委員長を務めるなど、専門的見地から宮古島地域において地下水保全、環境教育など総合的な環境保全活動を行っており、その功績は顕著である。<br>特に、昭和６２年頃に宮古島で問題となっていた硝酸性窒素濃度の上昇について検討調査、提言に取り組み、減少傾向に導いた。<br>また、沖縄県立宮古農林高等学校が実施している環境保全型農業に協力し、同校の第６回日本水大賞（平成１６年）、ストックホルム青少年水大賞（グランプリ）の受賞（平成１６年　日本初）に貢献した。<br>平成１９～２１年度にかけては、環境省の「地域の健全な水循環の構築に向けた計画」の策定に、尽力した。同時に宮古島の地下水への理解と保全を呼びかけた小学生向けの副読本の作成に当たり、環境教育の分野にも取り組んだ。<br>さらに、現在、宮古島での取組を同様の問題を抱える他の島への普及・展開を目指している。 |
| 九州地方環境事務所 | 環境パートナーシップくまもと市民会議（エコパートナーくまもと）<br>かんきょうぱーとなーしっぷくまもとしみんかいぎ（えこぱーとなーくまもと）<br><br>会長　中村邦博　中島校区まちづくり委員会<br>役員数　15名　構成員数　330名　82団体 | 平成１４年に設立されて以来、九州におけるエコパートナーの草分け的な存在として地域の様々な環境問題に取り組んでいる。特に企業や市民、行政、その他のNPOなどの協力の下、活動を実施している。<br>主な活動としては熊本県や熊本市などとともに「総ぐるみ　環境フェア」（昨年は１１月２８、２９日）を熊本市内中心部で主催し、市民への環境問題の普及啓発活動を行っている。<br>また、個別の環境問題に対して、取り組むために９つのワーキンググループに分かれ、地球温暖化やゴミ問題、地域の水・緑の保全活動などを行っている。例えば、「水と緑ワーキンググループ」では「江津湖探検隊」として、市内にある「平成の名水百選」にも選定されている湧水地、江津湖の植生や地質の学習会、現地ツアーなどを実施している。また、「よかエネ部会」では新エネルギーなどの環境に“よか”エネルギーについて考え、広めていくための学習会や施設見学会などの連続講座『よかエネ市民学校』を開講し、多くの市民の参加を得ている。<br>さらに、平成２１年には水と緑ワーキンググループで活動している大住氏が同ワーキンググループでの活動が認められ、熊本県から「くまもと環境賞」を受賞した。 |

# 地域環境美化功績者功績内容等

| 県別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 活動内容 | | 功績 |
|---|---|---|---|---|
| 青森県 | 奥戸川蝉会<br>おこっぺかわせみかい<br>会長　佐藤　信彦<br>12名（会長1名、副会長2名、会計1名、会員8名） | 対象活動<br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | ①イワナ、ヤマメの定期放流　②河川美化活動　③小学生を対象とした自然体験学習　④釣りマナー指導<br>28年3ヶ月<br>10回程度<br>青森県下北郡大間町大字奥戸 | 青森県大間町内の川に生息するイワナやヤマメ等の絶滅を防ぐため、昭和57年の設立以来、毎年定期的にイワナ等の稚魚を川へ放流するとともに、ゴミを入れるドラム缶を林道へ設置し、イワナ等の住みよい河川環境の維持に取り組んでいる。<br>また、平成17年からは地元の小学生を対象として、イワナの稚魚放流や地元の山川の現状を肌で感じ、自然保護についての理解を深めるための自然体験学習を行っている。<br>更には、平成19年からは自然体験学習に参加した児童から応募のあった自然保護をテーマとした標語を、ゴミを入れるドラム缶へ表示し、林道に設置している。<br>長年継続してイワナ等の放流や河川清掃を行ってきた結果、河川等へのゴミは非常に少ない状態にあり、また、自然体験学習に参加した児童の自然保護の重要性に関する意識醸成に大きく寄与している。 |
| 秋田県 | 松下　衛司<br>まつした　えいじ<br>横手市環境美化推進員連絡協議会理事 | 対象活動<br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | 地域における環境美化活動、不法投棄防止活動<br>30年<br>110日<br>秋田県横手市横手地域（旧横手市） | 昭和５４年４月、横手市環境美化推進員として委嘱以来、地域の環境美化活動、不法投棄抑止のためのパトロールなど率先して行動してきた実績は他の模範である。また、同時に同連絡協議会の理事も務められ、地域の清掃やクリーンアップはもちろん、ごみ減量化、ごみ出しルールの徹底など地域美化活動のリーダーとして指導的役割を果たされている。現在も横手市委嘱の環境美化推進員連絡協議会理事として引き続き幅広く活動されている。 |
| 福島県 | いわき市末続道路愛護会<br>いわきしすえつぎどうろあいごかい<br>会長　遠藤　周壽<br>構成員　約120名 | 対象活動<br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | 美化・清掃活動<br>50年<br>7日間程度<br>久之浜町末続地内 | 当該地域は、国道６号を間に海と山に囲まれた自然環境に恵まれたところであり、地域住民も環境美化・公衆衛生に対する関心が深く、国道を通過する車からのポイ捨てごみの収集に常に心がけ、また、いわきのまちをきれいにする市民総ぐるみ運動には早朝より全世帯一丸となり、ごみのない住みよいまちづくりに取り組んでいる。<br>また、国道６号を広野方面に向かい、末続第一トンネルを過ぎた道路右側法面等には、地域住民が植栽や管理に努めているアジサイが毎年、色鮮やかな花を咲かせている。<br>このような、長年にわたる地域環境の美化活動の取り組みは他の模範となるものであり、その功績は顕著である。 |
| 茨城県 | 特定非営利活動法人　里山を守る会<br>とくていひえいりかつどうほうじん　さとやまをまもるかい<br>理事長　中川　行夫<br>役員12名（理事長1名、副理事長2名、理事7名、監事2名）、正会員110名、賛助会員97名、計207名 | 対象活動<br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | 里山（「五郎助山」、「丸山」）における下草刈り、間伐等<br>10年<br>160日<br>筑西市上野字五郎助山付近雑木林「五郎助山」及び辻字丸山付近雑木林「丸山」 | 当会は、里山を活用して子どもたちに身近な自然環境を体験してもらうことを目的とし、平成１２年の活動開始以来今日に至るまで里山の環境を保全するための活動と子どもたちに自然環境を体験してもらう事業を続けている。<br>里山の環境保全・美化活動については、子どもたちをはじめとして地域の人々に親しまれるような里山とするため、地域の里山である「五郎助山」「丸山」において、下草刈り、間伐、放置ゴミの清掃等の環境保全活動を行い、以前と比較にならないほどのきれいな里山にするなど環境美化に貢献するほか、平成１７年には広葉樹（クヌギ、コナラなど２５０本）を植樹するなど、里山のさらなる環境整備に貢献している。<br>また、間伐後は、間伐材を単純に焼却するのではなく、間伐材を利用した椎茸やなめこの栽培を行うことにより、環境負荷を少なくしている。このような取組は、他の団体にも感銘を与え、多くの団体が見学や共同作業に訪れるなど、大きな影響を及ぼしている。<br>子どもたち向けの自然環境体験事業については、幼稚園や小・中学校からの要請により、この里山を活用した、山遊び、里山探検、巣箱づくりなどを行っており、毎年２千人前後の多くの子どもたちが参加するなど、身近な自然とふれあう機会の創出にも大きく貢献するとともに、里山の環境を維持していく活動の意義についても子どもたちに伝え、次世代の環境意識の醸成にも大きな効果を上げている。 |

# 地域環境美化功績者功績内容等

| 県　別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 活動内容 | | 功　績 |
|---|---|---|---|---|
| 栃木県 | 特定非営利活動法人<br>安佐グラウンドワーク<br>とくていひえりかつどうほうじん<br>あんさぐらうんどわーく<br><br>会長　恩田　勉<br>役員　会長以下16名　構成員30名 | 対象活動<br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | 秋山川清掃、地元小中学校と連携した美化活動や芝桜の植栽など（秋山川の一斉清掃（5月第四日曜日）には市民1万人が参加）<br>34年<br>約15日<br>佐野市秋山川河川敷　30km | 昭和４８年、豊かな地域社会づくりを推進するため、また、当時の安佐地区（佐野市、田沼市、葛生町）の一体感の醸成のため、当時の(社)佐野青年会議所が中心となり、町会や地元企業と連携して秋山川の清掃活動を開始した。以来、３０年以上にわたって取組を継続している。<br>平成１２年に「安佐グランドワーク」をして独立してからは、地元の小中学校とも連携し、秋山川の清掃活動だけではなく、芝桜の植栽など、幅広い活動に取り組むことで、地域の環境美化活動に多大な貢献を行ってきた。<br><br>・平成２２年３月１９日　「とちぎの環境美化県民運動」功労団体表彰【栃木県】（安佐グランドワーク） |
| 群馬県 | 沼田市くらしの会<br>ぬまたしくらしのかい<br><br>会長　木下　啓江<br>会員105名 | 対象活動<br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | 地域社会における消費生活の改善・向上を図ることを目的とする<br>35年<br>年間を通して随時活動中<br>市内全域 | １　資源の有効利用・廃棄物の減量化等の循環型社会を目指し、古着のリフォームや古紙、資源ごみの回収などの活動を昭和60年頃から継続的に実施し、地域環境美化の向上の一躍を担っている。<br>また日常の買い物にはエコバッグを持参するなど、生活に密着した環境活動を積極的に行っている。<br><br>２　市が主催して開催する「ぬまた環境フォーラム」に毎年参加し、来場者を対象に不用品を活用した小物入れの製作を行う体験コーナーを設置したり、自宅で作るコーヒーゼリーの試食コーナーなどを設け、主婦の目線で環境問題を市民にわかりやすく啓発する活動を行っている。<br><br>３　市内各支部（町単位）において、地域の神社やバス停においての草むしりや空き缶拾いなどの清掃活動及び廃品回収などを行い、地域の環境美化に取り組んでいる。<br><br>４　平成２１年度においてはこれらの活動に加え、協力会員宅においてゴーヤ等を使ったグリーンカーテンを実施し、各家庭単位で取り組める緑化及び温暖化防止活動を実践した他、糠を再利用したカイロの製作など、ユニークなアイデアで環境問題に取り組んでいる。またその取組内容を上記「環境フォーラム」の場で発表するなどし、一般家庭で実践できる環境活動の事例をわかりやすく紹介するなどして、市民の環境意識高揚の一躍を担うなど、他の団体の模範となっている。<br><br>５　様々な環境問題に対して主体的に取り組む団体等が連携して作る「ぬまた環境ネット」（事務局：沼田市環境生活課）に入会しており、環境に関する情報提供及び啓発活動に取り組んでいる。 |

# 地域環境美化功績者功績内容等

| 県　別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 活動内容 | | 功　　績 |
|---|---|---|---|---|
| 埼玉県 | 特定非営利活動法人<br>自然観察さいたまフレンド<br>とくていひえいりほうじん<br>しぜんかんさつさいたまふれんど<br><br>代表理事　小野　達二<br>代表理事1、副代表理事4、理事15、監事2、構成員120名 | 対象活動<br><br>従事年数<br><br>年間活動日<br><br>活動範囲 | 実践活動（水質調査、植生調査など）/啓発活動（環境教育、体験学習、自然観察ハイキングなど）<br><br>19年<br><br>年間50日以上（水環境調査14回、生物調査24回、自然観察19回程度など）<br><br>見沼田圃、芝川、槻川、大宮台地など | 1　水環境調査、生物調査の実施<br>①芝川低地の水質・水環境調査（年12回）<br>②槻川の水質調査（年2回）<br>②生物モニタリング調査（年24回）<br><br>2　啓発活動<br>①学校や市民団体等を対象とした環境教育や体験学習に、自然観察指導員を講師派遣。<br>②バードウォッチングや自然観察ハイキング等により、生物を中心に自然の見方や魅力を啓発。（年30回程度）<br>③上記①②等において、講師を多数の会員とすることにより、多くの指導者の育成に尽力。<br>④埼玉県広報番組「ナチュラリスト入門」（テレビ埼玉）主演。<br>⑤会報「みちくさ」毎月発行。<br><br>3　環境行政への協力<br>①埼玉県運営の市民団体等共同体「見沼たんぼくらぶ」に参画し、見沼田圃の保全に尽力。<br>現在は、同くらぶの運営を担い、各市民団体等の協働に大きく貢献している。<br>また、県水環境課の「木炭による地域連携河川浄化事業」の実施にも協力し、木炭を通じた河川浄化→農地<br>還元→収穫という循環型システムの構築に大きく貢献している。<br>②環境省の「水生生物調査」に毎年参加。 |
| 埼玉県 | 特定非営利活動法人<br>エコシティ志木<br>とくていひえいりかつどうほうじん<br>えこしてぃしき<br><br>代表理事　天田　眞<br>代表理事1、副代表理事2、理事7、監事2、構成員56名 | 対象活動<br><br>従事年数<br><br>年間活動日<br><br>活動範囲 | 実践活動（清掃・保全活動、水質調査、生物調査）/啓発活動（環境教育、親子観察会など）<br><br>15年<br><br>年間100日以上（清掃・保全活動50回、生物調査12回、環境教育39回）<br><br>志木市（新河岸川、柳瀬川など） | 1　清掃・保全活動、水環境調査の実施<br>①新河岸川及び柳瀬川河川敷の清掃及び外来植物の駆除活動（年50回）<br>②柳瀬川の野鳥及び水生生物調査（年12回）<br>③毎年地元中学校と合同で「身近な川の一斉調査」を実施（14年間）<br><br>2　啓発活動の実施<br>①地元小中学校等を対象とした環境教育（年39回）<br>②親子向け観察会（年4回）<br>③市民祭において「柳瀬川出前水族館」を出展し、広く啓発を行った。<br>④「志木ぶらり散歩マップ」を3,000部発行し、広く啓発を行った。<br>⑤会報「エコシティ志木通信」発行（年4回）<br>⑥ボランティア・ＮＰＯ体験者の受け入れを行い、指導員の育成、意識啓発に尽力。<br><br>3　環境行政への協力<br>市民独自の環境基本計画「市民がつくる志木市の環境プラン」を策定し、自ら実践。<br>また、市の環境基本計画の策定にも深くかかわり、内容の決定について大きく貢献した。 |
| 千葉県 | 明るい社会づくり船橋市推進委員会<br>あかるいしゃかいづくりふなばししすいしんいいんかい<br><br>代表者　篠田　好造<br>構成員　1,177名 | 対象活動<br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | 清掃活動<br>34年間<br>30日<br>市内 | 「感謝と協調と奉仕の心を基にして、平和で生きがいのある明るい社会づくり」をめざすことを目的に、昭和51年に会を設立し、34年間の長期にわたり活動を行っている。現在会員数は約1,200名。市内の清掃活動としては、船橋をきれいにする日の参加や市民まつり実施後の清掃作業等を実施している。環境保全活動としては、船橋市環境フェア実行委員会や、船橋市三番瀬クリーンアップ実行委員会に参加するとともに運営に参画している。また、啓発活動として、廃油利用のせっけん作りとその使用普及を積極的に行うなど、長年地域への環境保全奉仕活動を実践しており、地域の環境保全・環境美化に大いに貢献している。 |

# 地域環境美化功績者功績内容等

| 県　別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 活動内容 | | 功　績 |
|---|---|---|---|---|
| 神奈川県 | 第１８区高梨町自治会<br>だいじゅうはちくたかなしちょうじちかい<br><br>会長　加藤　芳永<br>構成世帯　140世帯 | 対象活動<br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | 地域環境美化清掃<br>30年<br>年間10回程度　その他大雨後、海に流出したごみの多いときなど随時<br>海岸、公園、商店会など区域内全域 | 昭和３３年から、海岸、公園を中心に地域の美化に取り組んでいる。公式行事としては、児童公園を年２回、イベント前清掃を年４回、海岸清掃を年２回開催しているが、そのほか、大雨後海に流出したごみが多いときなど、随時清掃活動を行っている。<br>また、「高梨町をきれいにする会」を自治会内に設け、地域の商店会にプランターを設置し、年２回の植栽と、維持管理を行っている。<br>海岸清掃には、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の住民が参加するほか、近隣地区の住民も参加している。地域住民が一体となって、継続的に地域の環境美化の保全と住み良いまちづくりに貢献しており、他地域の模範となっている。 |
| 新潟県 | 金谷山さくら千本の会<br>かなやさんさくらせんぼんのかい<br><br>会長　相澤　紀<br>会員　125名 | 対象活動<br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | 植樹・植栽等の緑化活動<br>7年<br>10日程度（4月～11月、月1回程度）<br>上越市内　金谷山 | ○日本スキー発祥の地である金谷山の里山を昔のように美しく、活力のある森林に再生すること、子どもたちを里山に呼び戻すことを目的として、平成１４年度から活動している。<br>○地主から理解をいただいた２．５haの雑木林を対象に、森林の整備や、水辺環境の復元等に取り組んでいる。この雑木林は人の利用が途絶えてから３０年以上が経過し、荒れ放題で人が入ることさえできなかったが、遊歩道を開設しながら不良木を伐採、桜等を植栽し、活力と彩のある森の再生を図っている。<br>○これまでに桜３３４本のほか、雪割草、水芭蕉を植栽し、春には花を愛でる人たちが増えている。<br>○毎年４月～１１月の第２日曜日を定例活動日として、会員による手作業を主体に、次のような事業を実施している。<br>（平成２１年８月時点）<br>・桜の植樹：草生地、遊歩道周辺、除伐によるギャップにオオヤマザクラ、カスミザクラ等３３４本を植樹<br>・桜の保育：草刈り、施肥、剪定、雪害防止工等<br>・森林の整備：枯損木、不良木の伐採、蔓切り、枝打ち等。伐採木はきのこ原木、杭木や粗朶として利用<br>・遊歩道の整備・修復：林内の観察や作業の効率化のための循環道として８００mを整備<br>・雪割草の植付：遊歩道に沿って５２０株を植え付け<br>・水辺の整備：水田跡や湧水周辺の環境を復元し、ビオトープを整備。水芭蕉、蒲蒲を植え付け<br>・憩いの広場の整備：眺望の優れた場所に休憩用のベンチや舞台を設置<br>・その他：市内環境イベントにおいて活動紹介のパネル展示を実施 |
| 富山県 | 高岡市立太田小学校<br>たかおかしりつおおたしょうがっこう<br><br>校長　安元　恵子<br>児童数　124名、教職員　13名 | 対象活動<br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | 海岸の美化活動、環境教育及び美化意識の啓発活動<br>59年<br>約30日<br>雨晴海岸一帯、校下内一帯 | 近くに国定公園の雨晴海岸などがあるため、長年にわたって海岸線に漂着するごみ等の清掃活動を実施している。<br>・７月　市が行う海岸の一斉清掃に参加<br>・７月　海上保安庁の調査に協力<br>・８月、１１月　児童会として、松太枝浜・雨晴海岸の清掃を実施<br>・９月　海辺の漂着物調査へ参加<br>・１０月　校下の海岸・通学路の清掃を実施<br>・１１月　「浜っ子校内マラソン大会」の事前に海岸清掃<br><br>海岸美化に関する標語募集や啓発看板を設置するなど活発な活動を行っている。<br>・８月　海岸美化に関する標語の募集<br>・３月　標語を啓発用立看板にして、海岸一帯に設置<br><br>毎月、児童会として地域住民が行う清掃活動（太田地区クリーン作戦）に参加するとともに、清掃活動や漂着物調査にあわせて環境教育を実施するなど、地域の環境美化意識の高揚に努めている。 |

# 地域環境美化功績者功績内容等

| 県別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 活動内容 | | 功績 |
|---|---|---|---|---|
| 山梨県 | 小尾　幸好<br>おび　ゆきよし<br>長坂町花卉振興協議会会長 | 対象活動<br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | 植花活動とその後の維持管理・花卉振興のための技術指導・公園や道路の花壇整備及び苗、肥料等の提供（市からの支援で足りないものを提供している。）<br>平成5年～平成22年まで（17年間継続中）<br>毎年4月から11月（約113日）<br>長坂駅前及び長坂I.C入口花壇、長坂柿平区及び小淵沢区（県道茅野北杜韮崎線沿線）、オオムラサキ公園、三分一湧水公園内花壇 | ・小尾氏は、平成５年に県立峡北農業高等学校（現県立北杜高等学校）を退職後、農業技術科での技術指導で培った野菜・果樹・花卉育成の専門知識を活かし、地域に貢献できるものはないかと県道沿いの植花活動をはじめ、現在に至っている。また、それ以後、例年実施される「花いっぱい運動」（町建設安全協会主催）でも、苗・肥料等の提供を行うとともに、花壇のその後の維持管理を含めた指導にあたっている。<br>・地域の方々に野菜作りの技術を伝え、収穫された野菜の道の駅等への出荷を先頭に立って行われ、地域の活性化に貢献されている。<br>・現在では、長年の植花活動が地域に定着し、町内のこどもクラブや有志団体とも連携し、公園等の花壇の世話や観賞用の鉢植えの設置等幅広い活動を展開し、植花活動の先駆者として活躍されている。 |
| 山梨県 | 北杜市立白州小学校<br>ほくとしりつはくしゅうしょうがっこう<br>校長　小林　仁<br>教職員22名、児童154名 | 対象活動<br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | 地域のごみ拾い、花いっぱい運動、空き缶リサイクル、ペットボトルキャップ回収（世界の子どもにワクチンを贈る運動）<br>30年<br>4月～3月（通年）<br>白州小学校区 | 昭和５３年度から、学校周辺の落ち葉掃きを行い、それを堆肥として野菜や米づくりの勤労体験学習を現在まで行っている。<br>また、月に１度、登校時に道路のゴミ拾い活動を実施することで、児童の環境美化意識を高め、地域の清掃活動や、リサイクル活動に積極的に参加するようになるなど、多くの成果をあげている。校内を季節の花で飾る活動が認められ、昭和６３年１１月には全国花いっぱいコンクール優秀賞を、平成４年５月には同最優秀賞を受けた。<br>さらに、昭和６２年度から現在まで、地域を散策する「わんぱく大行進」を実施して、地域の自然環境や文化を学ぶことで、環境保全や美化運動の意識の高揚を図っている。<br>リサイクル活動の一環として、平成８年度からアルミ缶の回収を現在まで行っている。アルミ缶回収の収益で車いすや歩行器、簡易ベット等を購入し、地域の福祉施設白州デイサービスセンターに寄贈している。これらの功績によりアルミ缶リサイクル協会からアルミ缶回収優秀校として表彰を受けた。<br>これらの活動が認められ、平成１６年６月には山梨県環境保全功労者表彰（知事表彰）を受けた。<br>平成２１年度から行っているペットボトルキャップの回収は、「世界の子どもにワクチンを贈る」活動につながることから、活動内容が実感しやすく、活動の活性化につながっている。 |
| 山梨県 | 甲州市立玉宮小学校<br>こうしゅうしりつたまみやしょうがっこう<br>校長　望月　恒彦<br>教職員18名、児童51名 | 対象活動<br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | 地域のごみ拾い運動、花いっぱい運動、アルミ缶回収、ペットボトル回収<br>10年<br>4月～3月（通年）<br>玉宮小学校区 | 平成元年度から玉宮小学校区にあるザゼンソウ群落地の清掃活動に全校で取り組んだ。一時期、この活動を育成会の事業として、保護者とともに実施していたが、平成２０年度から学校を主体とした活動として再開し、夏休み前に草刈りやごみ拾い活動を実施するなど、環境美化活動に取り組んでいる。<br>平成１３年５月から、水神池公園内の学校田で水稲栽培を行うとともに、峡東農務事務所や峡東林務事務所、東京電力の指導を受け、生物調査や水質調査を実施することで地域の環境を身近に感じ、児童や教職員、保護者が率先して草刈りや清掃活動を行っている。また、「地域を愛する」をテーマにした標語を作成し掲示することや集団下校の際に通学路のごみ拾いを行うことで、児童はもとより地域住民の意識が向上するなど環境美化活動に取り組んでいる。<br>これらの活動が認められ、平成１６年６月には山梨県環境保全功績者表彰（知事表彰）を受けた。<br>さらに、平成２０年度からリサイクル活動の一環として児童会が中心となって実施しているアルミ缶とペットボトルキャップの回収は、車いすの購入や、ワクチン購入への支援につながっている。<br>このような活動により、児童が郷土に誇りを持ち、この地域に生息する動植物への興味や関心が高まるとともに、環境保全に対する意識も高まっている。 |

# 地域環境美化功績者功績内容等

| 県　別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 活　動　内　容 | | 功　　績 |
|---|---|---|---|---|
| 山梨県 | 小荒間長寿者クラブ<br>こあらまちょうじゅしゃくらぶ<br>代表者　瀬戸　龍徳<br>構成員　85名 | 対象活動<br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | 三分一湧水公園付近の環境パトロール（清掃月1回・花植え年3回）・甲斐小泉駅周辺草刈等環境整備（年3回）・平山郁夫シルクロード美術館前市営公衆トイレの清掃（週3回）<br>昭和60年～平成22年まで（26年間継続中）<br>約125日<br>三分一湧水公園とその周辺・甲斐小泉駅周辺・市営公衆トイレ周辺 | ・三分一湧水は、昭和６０年に日本名水百選に選定されたこと等により、八ヶ岳南麓の観光地として毎年多くの観光客が訪れているが、その反面、ごみの散乱等による遊水池の荒廃が目立つようになった。民有地だった当時は、行政による管理もされておらず、この状況を見かねた小荒間長寿者クラブがごみ拾いと巡回を兼ねたボランティアを始めた。この活動は、三分一湧水公園として行政の管理下に置かれるようになった現在も、環境パトロールとして実施され、公園内を流れる高川上流の草刈りと清掃活動も含め、観光地を自らの手できれいに保っていこうという意識も高い。さらに、会員の長年の知識は訪れる人々に由来や史跡を紹介する形で観光案内としても定着している。<br>・平成１６年に平山郁夫シルクロード美術館が開館してからは、美術館前の市営トイレの清掃を週３回実施して、来訪者にも気持ち良く利用していただいている。<br>・甲斐小泉駅周辺の草刈等も行い、ボランティア意識も根強く定着している。<br>・地域の清掃活動においても、長寿者クラブの率先した行動により、区民の意識の向上に貢献している。 |
| 長野県 | 農具川環境美化委員会<br>のうぐがわかんきょうびかいいんかい<br>代表　小林　才一<br>代表1名　事務局長1名　会計1名<br>監事2名　会員33名 | 対象活動<br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | 農具川両岸へのアヤメ・つつじ等の植樹活動。農具川フォトコンテストの開催。蛍の再生活動。<br>アヤメ、つつじの植樹活動9年、農具川フォトコンテスト8年、蛍の再生活動6年<br>年間約80日<br>農具川（1級河川）の両岸1.8km | ①農具川両岸におけるアヤメ・つつじ等の植樹による緑化推進活動<br>平成１３年から河川改修後の農具川両岸にアヤメ・つつじ等の植樹を開始。現在に至るまでに総延長１．８km、アヤメ約8,500株、つつじ約1,500株を植樹した。<br>②不法投棄ごみ回収などの環境美化活動<br>定期的に河川周辺の不法投棄ごみの回収を行うとともに、毎年市内の中学校と連携し河川内の清掃も行っている。<br>③フォトコンテスト開催による環境意識啓発活動<br>平成１４年から農具川沿いの風景を題材にした「農具川フォトコンテスト」を毎年開催。多くの住民へコンテストの参加を呼びかけることにより、環境美化・環境保全の意識啓発を図っている。<br>④蛍再生・カワシンジュガイの保護などの生態系再生・保全活動<br>平成１６年から設置後放置されていた蛍育成用の水路を再生。また育成用水路にて大町市指定天然記念物であるカワシンジュガイが確認されたため、併せてその保護育成活動も行っている。 |
| 長野県 | 天龍村立天龍小学校<br>てんりゅうそんりつてんりゅうしょうがっこう<br>校長　田中　克明 | 対象活動<br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | 「天龍ピカピカ大作戦」として国・県道及び村道のゴミ拾いをし、環境美化の活動を実施している<br>11年（平成12年からこの活動を実施している）<br>年間2回（5月末及び9月末に実施）<br>国道418号線及び県道飯田富山佐久間線、及び村道沿いを中心にゴミ拾いを実施 | 国・県道及び村道沿いを中心にゴミ拾いをして清掃活動を実施、また拾ったゴミも分別までを行い、環境美化の学習も併せて行うことで環境美化への意識を強くもってもらう。<br>また小学生を中心にゴミ拾いを行っているが、各団体や一般村民へも参加を呼びかけてゴミ拾いを実施することで村全体で環境美化の取り組みに貢献している。 |
| 静岡県 | 鈴木　りゑ<br>すずき　りえ<br>島田市花の会会長 | 対象活動<br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | 島田市花の会役員を歴任し、長年にわたり地域の環境美化に努めた<br>52年（S32.4.1～現在）<br>週1回以上<br>島田市一円 | 環境緑化ボランティア団体「島田市花の会」じゃ、道路、教育施設、福祉施設等の花壇製作や維持管理を行うボランティア団体で、島田市を花により潤いのある街とすべく、昭和３２年の創立以来、地域緑化の推進や花を通じた交流活動を行い、公共の福祉の増進に多大な貢献を続けている。<br>この会において、氏は、設立当初から会員として参加し、花の育成を通じた社会貢献に強い熱意を持ち、花による交流活動を積極的に進めている。昭和５０年４月からは同会理事、昭和５７年４月からは副会長を務め、平成１０年からは、会長を務めている。<br>この間、島田市立第四小学校、同第五小学校において、新入生一人一人に対し、花の苗を贈呈する活動を行い、緑化思想の普及に努めている。また、市内４か所の介護老人福祉施設へ、年３回、プランター植えの提供を行うとともに、障害者支援団体と花植えの共同作業を通じた交流にも取り組んでいる。<br>その卓越した知識と指導力をもって自ら率先垂範し、多くのボランティアを育成し、同会の活動を牽引するとともに、会の発展と併せて、環境の美化及び草花の育成を図っている功績は誠に顕著である。 |

# 地域環境美化功績者功績内容等

| 県別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 活動内容 | | 功績 |
|---|---|---|---|---|
| 愛知県 | 稗田川かるがも会<br>ひえだがわかるがもかい<br><br>会長　荒川　昭治<br>構成員　180名 | 対象活動<br><br>従事年数<br><br>年間活動日<br><br>活動範囲 | 地域住民による定期的な河川清掃及び美化活動の実施<br><br>13年9月<br><br>年2回　春（4月第1日曜日）、秋（9月第1日曜日）<br>親睦会その他、会員の自主的な活動とともに、各種イベントに参加する<br><br>河川・堤防の清掃活動。稗田川―法響橋から新高取橋、鮫川―池田橋までの区間の清掃・美化活動を行う。<br>河川がきれいになり、いろんな魚が増え、それらを餌とする、「かるがも」が戻ってくるような環境づくりをすることにより、地域の環境美化を推進する。 | 高浜市は、生活排水対策重点地域に指定されている「油ヶ淵周辺地域」流域市であり、稗田川は、高浜市域の東南部市街地の東側を南下し、高浜川に合流している２級河川である。<br><br>稗田川かるがも会は、稗田川流域の地域住民が魅力ある住みよい街づくりを推進するため組織し、地域に流れる河川の美化活動を実施することにより、身近な水環境の保全に大きく貢献している。<br><br>また、愛知県と４市で設立した油ヶ淵水質浄化促進協議会が実施する「油ヶ淵浄化デー」に毎年参加し、稗田川等の清掃を実施するなど油ヶ淵の水質浄化の促進に努めている。 |
| 愛知県 | 出川区<br>でがわく<br><br>代表者　出川区長　清　俊郎<br>構成員　688世帯 | 対象活動<br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | 河川浄化活動、清掃、河川パトロール<br>19年<br>13日<br>一級河川　内津川（松本橋から中部電力神領アパート横）<br>一級河川　内津川放水路（内津川分岐点からＪＲ中央線交差地点） | 活動範囲は、内津川の松本橋から中部電力神領アパート横までの約１．２㎞及び内津川放水路の内津川分岐点からＪＲ中央線交差地点までの約０．８㎞。<br>毎月実施される河川パトロールでは、簡易検査のpH、ＣＯＤ、透視度を測定することで水質異常の監視をするとともに、草刈や空き缶等のごみ回収などを行っている。 |
| 京都府 | 福知山商工会議所<br>ふくちやましょうこうかいぎしょ<br><br>会頭　谷村　紘一<br>構成員　1,158事業所 | 対象活動<br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | イベント時の来場者が自らのゴミを持ち帰る「ゴミもちカエル」運動<br>12年6ヶ月<br>2回以上<br>北近畿最大のイベント「ドッコイセ花火大会」等の市内イベント会場 | 福知山商工会議所は平成９年から[環境に配慮した商工会議所活動」を提唱。各種イベントにおいて、会場内のごみ箱をすべて排除し、来場者自らが持ち帰るという「ゴミもちカエル」運動を展開し、環境美化思想の普及、啓発を積極的に推進している。<br>特に、平成１３年からは、北近畿最大のイベントである「ドッコイセ花火大会」において、この運動を積極的に推進し、毎年１１万人の観客が出していた約１０トンのごみを０．８トンまで減少させた。<br>この実績を基に、「ゴミもちカエル」運動は市内で開催される各種イベントへも波及・定着し、ごみ減量・環境美化に対する市民意識の向上及び循環型まちづくりへの功績は大きい。 |
| 大阪府 | 山野　為一<br>やまの　ためかず<br><br>泉大津市衛生委員会委員長 | 対象活動<br><br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | 市内の主な幹線道路等の清掃活動や不法投棄パトロール等の啓発活動に従事<br><br>32年<br>随時<br>市内全域 | ○昭和５３年に衛生委員に就任以来、主に委員会活動として実施している市内の主な幹線道路や港湾美化清掃活動、不法投棄パトロールに積極的に参加。<br>○平成１５年に衛生委員会委員長に就任してから、ごみの減量・リサイクルをさらに市民に周知するため、衛生委員会で「ごみの正しい出し方・分け方」パンフレットを50,000部作成（市の世帯数約33,000世帯）し、市に寄贈。<br>○ごみの不法投棄防止やペットの飼養マナー向上を目的とした啓発看板も自主的に作成し、必要に応じてパトロール時に啓発看板の貼付・設置。<br>○平成２０年からは、ごみゼロ大作戦と題して市内一斉清掃「ごみゼロ大作戦」の際にも各自治会や関係機関との調整役を積極的に行い、中心的な役割を担っている。<br>○時代のニーズに対応した活動のために定期的に各校区の代表者との意見交換会も実施。 |

# 地域環境美化功績者功績内容等

| 県　別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 活　動　内　容 | | 功　　績 |
|---|---|---|---|---|
| 兵庫県 | 中辻　剛<br>なかつじ　かたし<br><br>丹波市保健衛生推進協議会会長兼氷上支部支部長 | 対象活動<br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | 地区衛生組織の育成、地域の環境美化活動<br>20年<br>30日<br>丹波市 | ①丹波市保健衛生推進協議会の会長として、会の運営発展と各種事業の推進に尽力するとともに、地域の実践活動において、指導的役割を果たし、市民の環境美化意識の向上に貢献している。<br><br>②毎年春に行われる丹波地域一斉クリーン作戦の際には、地区組織の実践活動に指導者として尽力され、運動の推進に貢献している。<br><br>③環境パトロールを実施し、ゴミの無いまちづくりに貢献している。<br><br>④親と子の水辺教室･星空観察を実施し、自然とのふれあいを通じて、環境美化の大切さを教えている。<br><br>⑤各種健診・献血の必要性を広く呼びかけ、受診率、献血者の増加に貢献している。 |
| 奈良県 | 橋之爪　フミエ<br>はしのつめ　ふみえ | 対象活動<br><br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | 植樹、植栽等の緑化運動・公園、道路等の清掃活動<br>21年（平成元年12月～）<br>ほぼ毎日（平成元年12月～）<br>平成元年～現在　下北山村下桑原地域で沿道に花の植栽及び維持管理、地域バス停付近の清掃及び草刈り等<br>平成4年～平成19年　村立池原スポーツ公園にアジサイ植栽し、その維持管理 | 平成元年度に奈良県親切・美化県民運動のモデル地区の指定を受け、年中花が咲いている地域作りを目標に村・地域の推進員として種まきから育苗、冬越しのハウス作り、四季折々の花の苗５００本を沿道に植栽、又公共施設にプランター２００個、地域バス停近辺の清掃、草刈り等を実施しています。<br>また、平成４年度には、池原スポーツ公園に花いっぱい運動の一環として婦人協議会総出でアジサイの苗１０００本を植栽した。<br>その後管理推進リーダーをして肥料、草ひき、剪定、花枝切り等率先してお世話を行い、村民の方々のやすらぎの場として活用されている。<br>現在は、池原スポーツ公園では台風の影響による災害でアジサイを撤去してしまったため、活動を行っていないが、その他の活動は７９歳と高齢ながらも継続している。 |
| 奈良県 | 広陵古文化会<br>こうりょうこぶんかかい<br><br>代表者　平井　儀一<br>役員55名、会員数1,188名 | 対象活動<br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | 公園、道路等の清掃活動<br>26年（昭和59年～）<br>毎月1回日曜日に実施<br>昭和59年～現在　牧野（ぼくや）史跡公園のゴミ拾い、草刈り等の清掃活動 | 昭和５９年４月から、地域にある身近な文化財が自然環境の中で破壊されることのないよう、会員全員が輪番制で牧野史跡公園を始め、奈良県史跡三吉石塚古墳、特別史跡巣山古墳の草刈りやゴミ拾い等の清掃活動を実施するとともに、史跡に訪れる人々に観光案内及び文化財の説明を行い、文化財保護意識の高揚に努めている。<br>これらの活動は、地域の住みよい環境を守ると共に、地域の全ての人々が歴史に強い興味を示し、自らの郷土を愛し郷土を自分たちの手で自ら守っていこうという自覚を呼び起こしています。 |
| 島根県 | 広瀬町ふるさとの川浄化実行委員会<br>ひろせちょうふるさとのかわじょうかじっこういいんかい<br><br>委員長　塩谷　勝一（しおたにしょういち）<br>役員10名、構成員145名 | 対象活動<br><br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | 飯梨川上流域での河川の清掃活動、広葉樹の植樹<br>12年<br>1～3日（イベント実施日）<br>安来市広瀬町 | 平成３年の設立以降、定期的な河川清掃活動を実施。平成１５年には「クリーン広瀬・環境美化行動の日」を設け、各種団体や関係機関に呼びかけ、飯梨川付近を中心に大規模な一斉清掃を実施した。<br>平成１０年に環境活動の発展的展開を目的に、規約等を整備、名称を「広瀬町ふるさとの川浄化委員会」に改め、より広い環境活動を推進していく。<br>その後、平成１１年から植林活動を実施。川の源流である山に保水力のある広葉樹（ヤマグリ、ヤマザクラ）を植え、水源に水を育むとともに山林の保全や地球温暖化対策として貢献している。<br>この活動には、毎年、飯梨川（広瀬町の主流河川）下流部にあたる松江市、東出雲町などの他自治体からも植林ボランティアとして多数の参加を頂き、昨年（平成２１年４月）には、累計１０回目となる植樹活動を実施し、植樹本数は延べ2,000本を超え、植樹面積は1.2haに至る。<br>その他、環境保全活動として、CO2の吸収に役立つとされるケナフの苗を栽培・配布、また、「川」を身近に感じてもらうため、子どもたちを対象に「川辺のイベント」を開催するなど、多くの環境学習の場を市民に提供している。<br>これら多年に渡る継続的な活動を通して、自然環境及び生活環境の向上や住民の環境意識啓発に努め、地域の環境美化に寄与している団体である。 |

# 地域環境美化功績者功績内容等

| 県別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 活動内容 | | 功績 |
|---|---|---|---|---|
| 岡山県 | 日生町漁業協同組合<br>ひなせちょうぎょぎょうきょうどうくみあい<br>代表理事組合長　本田　和士<br>組合員数169名 | 対象活動<br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | 漁業者による海底ゴミの回収活動<br>28年<br>通年<br>瀬戸内海 | 漁業者自らが生活の恩恵を受けている漁場を、自らが積極的に清掃活動することにより、昔のような豊かな海が蘇ることを願いつつ地道な清掃活動を展開している。<br>以前は底びき網にかかったゴミは、その場で海に捨てていたが、昭和５７年～５９年度の一斉清掃活動を契機に、日々捕捉するゴミを持ち帰り、分別をして処分する仕組みを確立している。継続した地道な活動により、その功績は多大である。<br>また、平成１８年度から平成２０年度にかけて、環境省中国四国地方環境事務所主催の「瀬戸内海海ごみ対策検討会回収処理専門部会」に参加し、「海底ごみ回収処理推進のための手引き」等の作成に尽力した。 |
| 山口県 | 藤田　俊美<br>ふじた　としみ<br>宇部市環境衛生連合会副会長 | 対象活動<br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | 地区のごみの分別活動　ポイ捨て不法投棄防止　沢波川の環境美化活動<br>ごみの分別活動24年　ポイ捨て不法投棄防止12年　沢波川の環境美化16年<br>150日<br>西岐波地区内 | 昭和６１年４月東和町自治会長に就任以来、ごみの分別活動や地区を流れる沢波川の環境美化を積極的に行っている。<br>特に沢波川については、近隣自治会と「沢波川の会」を結成し、水質浄化のための竹炭の設置や小学校を対象とした竹炭づくり体験学習会などを実施している。<br>これらの地道な活動により、平成１７年頃から沢波川にホタルの生息がみられるようになった。<br>また、日常的に自らが校区全域を巡回し、校区内におけるポイ捨て不法投棄防止活動を積極的に推進している。さらに、地元中学校に働きかけを行った結果、海岸の漂着ゴミの清掃を中学校が授業として実施するなど、学校・家庭・地域が一体となった環境美化への取組を推進した。 |
| 徳島県 | 伊予川芋炊き実行委員会<br>いよがわいもたきじっこういいんかい<br>代表者　並岡　和久<br>役員（会長1名・副会長1名・会計1名）　会員数46名 | | 清掃活動、環境啓発、教育活動<br>10年<br>毎年6月上旬、9月上旬、11月上旬に清掃活動　随時、河川浄化、環境啓発、教育活動<br>山城町政友周辺 | 平成１１年１１月に発足以来、毎年６月上旬、９月上旬、１１月上旬と、伊予川の清掃活動を行っている。<br>９月の清掃時にはナイトラフティング、１１月の清掃時にはラフティング及び芋炊きを行い、参加者に河川の環境保全をアピール・啓蒙している。<br>最近は、「守る、育てる、その気にさせる」をキーワードに、「守る」活動としては、市長も参加する清掃活動や河川に流入する用水路への木炭の敷設の実施を、「育てる」活動としては、小学生やボランティアによる水質調査や水生生物調査の実施を、また「その気にさせる」活動としては、芋炊き会や夜間のラフティング体験など様々なイベントが実施されており、地域住民１，０００人に対して参加者４００人というイベントもあり、活動が地域に浸透している。 |
| 愛媛県 | 稲田　美則<br>いなだ　みのり<br>稲田株式会社会長 | | 公園道路等の清掃活動<br>昭和62年の活動開始より22年<br>180日<br>無管理の墓地（約2,500㎡）の管理と清掃・ゴミの処分。蒼社川沿いの空き缶回収 | ○活動従事年数は昭和６２年から現在まで２０年<br>○年間活動従事日数は、１５日×１２　１８０日（今年度は体調の関係で週１回程度のため約５０日程度）<br>○活動地域は墓地２，５００㎡とその周辺<br>○昭和６２年より忠霊塔前広場とその周辺の清掃を始める。晴天であれば毎日曜日２時間清掃する。（現在は、体調の関係で休止している。）また、蒼社川沿いに投棄されている空き缶を回収し、換金して社会福祉協議会及び障害者施設等に寄付している。<br>○昭和６２年より蒼社川１丁目にある無管理の墓地（約２，５００㎡、石塔４５０基）維持管理、清掃、ゴミの処理（以前は花等を干し、乾いてから焼却していた。）を始め墓地内の空き地を花壇として活用し、墓参りの人の心を和ませている。また、水洗トイレ、水汲み場等の設備の設置に努力した。今後３年を目標にゴミのないきれいな墓地にするべく、看板も設置し啓もう活動にも取り組んでいる。 |
| 愛媛県 | 品部　政夫<br>しなべ　まさお | 対象活動<br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | 道路等の清掃美化及び植栽活動、一般の人への環境美化啓発活動<br>平成2年の活動開始より20年<br>180日<br>玉川町内の史跡地や観光地、水ヶ峠トンネル入り口や国道317号線沿い | ○平成２年９月に公民館事業（花いっぱい運動）に参加し、活動の中心的役割を担って植栽活動を始めた。平成４年４月から８年間、玉川中学校の総合学習授業の一環として、町内の史跡地や観光地への案内板を作成し各所に設置し環境美化活動を行っていた。平成１０年３月からは、高齢者を中心に水ヶ峠トンネル入口や国道３１７号線沿線の花壇整備を行う。平成１３年７月からは、町内知的作業所利用者に呼び掛け、道路清掃活動を実施し、同年１０月の「ボランティアグループたまがわ」の発足当時からの会員として、環境美化活動に取り組み、国道３１７号線不法投棄ごみの定期的な撤去や不法投棄防止看板を設置するなど環境美化の啓発活動に多大の成果を上げている。<br>○地域環境美化事業（国道３１７号線、水ヶ峠トンネル付近）、月３回程度<br>○花いっぱい運動（今治市玉川町摺木、九和小～玉川運動公園付近）、月２回程度<br>○県道（伊予大井停車場線）花壇整備、月２回程度<br>○奈良原参道、桜植樹 |

# 地域環境美化功績者功績内容等

| 県　別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 活　動　内　容 | | 功　　績 |
|---|---|---|---|---|
| 長崎県 | 山口　隆男<br>やまぐち　たかお | 対象活動<br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | 草刈・清掃等を率先して行い、町内の環境美化に貢献<br>30年<br>約130日<br>柴田町内会・道路 | 町民の融和・誠心を提唱して、町内の親睦を図り、率先して町内美化運動を推進している。<br>日頃から清掃や草刈りを行うだけでなく、草花・花木の植栽やその維持管理に自ら進んで取り組まれるなど、町内の環境美化に貢献している。 |
| 長崎県 | 江頭　久義<br>えがしら　ひさのり | 対象活動<br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | 清掃活動、地域住民への普及啓発活動、地域環境美化に関する活動<br>20年間（平成2年から現在に至るまで）<br>ほぼ年間を通して活動（365日）<br>長崎県五島市全域（主に福江区域） | 平成２年から現在に至るまで地区衛生組織ほか、環境団体のリーダーを歴任し、また、地元の自治会長として常に住民の先頭に立ち、自ら清掃活動（河川、道路、公園等の清掃活動）、花いっぱい運動等の実践を通じて環境美化の啓発に取り組んでいる。<br>また、地元におけるマイバッグキャンペーン（買い物袋持参運動）やごみ減量化・リサイクルに関する取組みとしての生ごみ堆肥化の普及活動など、住民に対する啓発活動を推進している。<br>さらに、平成１８年からは県保健環境連合会監事として、県全体の環境美化活動の推進に尽力しており、広域的な活動を展開している。<br>以上のように、同氏は永年に渡り継続して地域の生活環境の保全、公衆衛生の向上などに積極的に取り組んでおり、その指導力は高く評価されるとともに、その功績は誠に顕著である。 |
| 長崎県 | 杭出津親和会<br>くいでつしんわかい<br><br>杭出津4区町内会長　中村　勝紀<br>構成員　510名 | 対象活動<br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | 町内全域の環境美化、公民会の広場、大上戸川河川公園、遊歩道の草刈り・清掃等<br>53年（昭和32年4月～現在）<br>24日<br>杭出津2丁目町内会 | ２週間に１回程度の周辺道路・庁内公園の清掃をはじめ、毎月１回は大上戸川の河川公園・遊歩道の草刈り、清掃を実施している。<br>５３年という長きに渡り、活動が継続されており、常に地域の環境美化に努められ、市民の模範になっている。 |
| 長崎県 | 竹松本町第一町内会<br>たけまつほんまちだいいちちょうないかい<br><br>竹松本町第一町内会長　井手　弘樹<br>構成員　330名 | 対象活動<br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | 町内全域の公園・公民館周辺の草刈り、清掃、花壇づくり等<br>49年（昭和36年4月～現在）<br>120日<br>竹松本町第一公園内 | 昭和３６年４月発足以来、町内全域の環境美化に努められ、各人年２回以上清掃当番として活動している。<br>公園遊具の点検、公園やトイレの清掃、草刈り、花壇づくり、花苗植えと手入れ、樹木の下枝切り等を実施され、花の絶えない明るい公園として、子どもから老人まで、いつも多くの人が利用し、交流の場となっている。<br>安心安全のまちづくりは、地域の連帯と環境づくりからと、意識向上を目指している。 |
| 熊本県 | 天草市立栖本中学校<br>あまくさしりつすもとちゅうがっこう<br><br>校長　大竹　紳一郎<br>96名（生徒82名、職員14名） | 対象活動<br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | ①学校版・家庭版ISO活動　②ふるさと川づくり河童隊　③環境検定<br>13年0ヶ月（平成9年4月～平成22年3月現在）<br>毎日<br>校区内 | 身のまわりの環境に対して、気づき、考え、行動する態度を育成し、環境保全の実践力を身につけさせることを目標に、１３年間の環境教育を実践している。５つの宣言項目の実践、記録、見直しを図る学校版環境ISO活動だけでなく、夏休み中には各家庭ごとに１０項目の行動項目の実践を促し、エコプロモーターライセンスを発行する家庭版環境ISO活動による家庭への普及啓発・行動化も図っている。また、独自の環境検定問題の実施、「ふるさと川づくり河童隊」による小・中学生、PTAと協働での河川の清掃活動など地域と連携した環境活動が行われている。<br>【活動の効果】<br>・学校便り・HP等での情報発信、小学校と連携した清掃活動により、年々河内川のごみも減少し、家庭や地域の住民の環境保全への意識の向上が見られる。<br>【今後の継続性】<br>・１３年継続している環境教育活動を毎年度毎に見直し、より良い活動、内容の充実を図る。 |

# 地域環境美化功績者功績内容等

| 県別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 活動内容 | | 功績 |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 大分県 | 豊後高田市立高田中学校<br>ぶんごたかだしりつたかだちゅうがっこう<br><br>校長　早田　義司郎<br>全校生徒　396名、全教職員　32名 | 対象活動<br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | 空き缶回収、清掃活動、植樹<br>35年<br>4月、5月、6月、7月、11月、1月、2月、3月<br>豊後高田市内 | 昭和５０年に環境美化と資源の再利用への意識向上を目的として、空瓶回収活動を開始した。学校、家庭、地域が協働して回収した空瓶等は換金後、卒業記念のＣＤ製作等生徒会活動の資金として活用され、生徒会活動の活性化とともに地域の環境美化意識の向上に寄与し、その活動は３５年間継続している。<br>平成１５年からは、新入生歓迎遠足に全校生徒による清掃活動を取り入れ、生徒のボランティア精神の醸成と豊後高田昭和の町を訪れる観光客にごみのない美しい町並を提供している。歓迎遠足の際には「ごみゼロ旗」をつけたリアカーを用いるなど、地域市民に対する美化意識向上の啓発も担っている。<br>近年では、本市で開催されるイベントへの清掃活動にも積極的に参加するようになり、平成１６年から新春の伝統行事である「ホーランエンヤ」に合わせ、生徒、保護者が一体となって清掃活動に取り組むほか、１１月開催の「若宮楽祭り」には、生徒会を中心とした清掃活動を自主的に行っている。<br>さらに、省エネへの意識を高めるため「キャンドルナイトキャンペーン」への各事業所、地域への呼びかけ活動や、地球温暖化防止の取組みである「昭和の町打ち水大作戦」へのブラスバンド部の演奏協力、２月開催の県内１周駅伝競走大会のコース沿道の清掃活動、中学校卒業前の清掃活動である「巣立ち運動」等の取り組みのほか、校内では「日本一美しいトイレ」を合い言葉に校舎内環境美化や植樹活動による緑化推進など、多岐にわたる取り組みが続けられている。<br>３５年前空瓶回収に始まった取組みが、年を重ねるとともに様々な活動へと発展し、現在に至っている。 |
| 宮崎県 | 旭化成マイクロシステム(株)延岡事業所<br>あさひかせいまいくろしすてむかぶしきかいしゃ　のべおかじぎょうしょ<br><br>事業所長　田村　敏<br>事業所総計　837名 | 対象活動<br><br>従事年数<br><br>年間活動日<br>活動範囲 | クリーン作戦<br><br>10年（2001年10月より活動開始）<br><br>年8回（4,5,6,9,10,11,12,3月）<br>工場周辺及び祝子川小山橋河川敷の清掃 | 旭化成マイクロシステム株式会社延岡事業所は、ＬＳＩ（Large Scale Interation）の生産工場をして、１９９３年１０月より出荷を開始している。ＬＳＩは、生産において、大量のエネルギー消費を伴うだけでなく、恵まれた自然環境が必要である。このことから、同社では、環境管理活動も経営の重要な課題のひとつとして位置づけ、２００１年にはISO14001を取得して、継続した環境改善に取り組んできた。<br>「クリーン作戦」は、そのような環境管理活動の一環であり、工場の地域共生のため、また従業員の環境意識啓発としても大きな役目を果たしている。<br>具体的な活動としては、２００１年９月より年に８回、工場周辺及び、敷地の近くを流れる祝子川の河川敷周辺のゴミや不要物の回収除去などを、従業員全員が参加して実施している。これまでに合計６６回実施し、延べ11,783名を動員、約３ｔのゴミ等を回収してきた。<br>これらの活動に対して、地域住民からは感謝の声や、継続を願う声も多く聞かれ、従業員の志気も高まっており、今度とも継続して活動を続けていきたいことである。<br>なお、同社では、この活動以外にも、①不要品は買わない、つくらない、持たない活動、②どうしても発生する不要物の分別強化とリサイクル活動にも力を入れるなど、ゼロエミッションを目指した総合的な環境マネジメントに取り組んでいる。<br>このように、地域環境に配慮した取り組みは、持続可能な発展モデルとして、他企業に与える影響も大きいと考えられ、その功績は大きい。 |
| 川崎市 | 島田　潤二<br>しまだ　じゅんじ<br><br>川崎市美化運動実施川崎支部田島地区副地区長 | 対象活動<br><br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | 市内統一美化活動、田島地区統一美化活動　他<br><br>24年<br>20回<br>追分町を中心に、田島地区全域 | 氏は昭和６１年に追分町町内会長・川崎市美化運動実施川崎支部田島地区理事に就任、平成１０年には川崎市美化運動実施川崎支部田島地区副地区長に就任し、地域の美化・清掃活動に熱心に取り組んできた。<br>町内会での自主活動はもとより、毎年実施している「市内統一美化活動」「田島地区統一美化活動」等で副地区長として、地区長に協力するとともに、氏は川崎支部理事も兼ね川崎区連合町内会副会長としての立場で、地域住民・企業市民と行政との調整を図り協力して行うなど、多大な功績を挙げている。 |

# 地域環境美化功績者功績内容等

| 県　別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 活　動　内　容 | | 功　　績 |
|---|---|---|---|---|
| 川崎市 | 丸子通２丁目町会<br>まるこどおりにちょうめちょうかい<br>中原区丸子通2丁目432番地<br>会長　加藤　栄一<br>町会会員数　1,000名 | 対象活動<br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | 公園・道路の清掃、違法路上広告物の撤去、河川等の美化活動、緑化推進活動、美化思想の普及啓発活動<br>56年<br>約140回<br>丸子通2丁目を中心に、丸子地区及び中原区全域 | 昭和２９年の町会設立以来、近隣住民と協力し、丸子通２丁目にある丸子通公園を重点的に清掃活動を行っており、また、公園には四季折々にきれいな花が咲くように植樹や花の手入れ等も行っている。<br>その他、毎週１回、道路の清掃及び違反広告物の撤去作業、ゴミ集積所の清掃などを長年にわたり実施し、美しいまちづくりを目指し美化活動を実施している。<br>また、市内統一的に行われる「多摩川美化活動」及び「市内統一美化活動」には、町内会役員が積極的に参加し、婦人部や子ども会・老人会等にも呼びかけ、参加者の増員に寄与している。その他、川崎市美化運動実施中原支部で実施している「クリーングリーンなかはらキャンペーン」にも積極的に参加し、区内全域の環境美化にも大きく貢献している。 |
| 相模原市 | 相原当麻田第二ときわ会<br>あいはらたいまだだいにときわかい<br>会長　今野　次雄<br>役員5名、構成員51名 | 対象活動<br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | 公園、道路等の清掃活動<br>32年（昭和53年4月～平成22年4月現在）<br>年6回（2ヶ月に1回）<br>・相原児童館、相原八幡宮の除草及び清掃　・地域内道路及び側溝の清掃 | 当、相原当麻田第二ときわ会は、昭和５３年に地域の老人会として結成されたが、その活動目的は会員相互の親睦以外にも、教養の向上や健康の保持、地域の美化活動なども目的として、各種のボランティア事業を長年にわたり開催している。<br>特に、八幡宮境内や公園、児童館の除草及び散乱ごみの清掃活動や、地域内の道路や側溝の清掃などの美化活動は、会の結成以来の長年にわたり実施している。また、この清掃活動とともに、地域の保育園や小学校を定期的に訪問して、園児や児童に昔の遊びを教える交流会を開催したり、福祉募金にも毎年協力するなどして、地域の美化推進のみならず、会員を通しての美化・福祉思想の普及啓発、地域間・世代間の交流に多大な貢献をしている。<br>また、ほぼ毎月、サークル活動や懇親会などの事業を行い、会員の健康保持と情報交換を活発に行っている。特に散策（ハイキング）については毎月、自分たちの住む地域周辺を歩き危険箇所等の情報交換を行うことによって、健康の保持と合わせて、地域の生活環境の改善にも貢献している。 |
| 京都市 | 境谷地域女性会<br>さかいだにちいきじょせいかい<br>代表　能登　富美代<br>役員数6名、構成員数43名 | 対象活動<br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | 美化活動、廃食油回収活動<br>美化活動28年、廃食油回収活動11年<br>美化活動12日（毎月1回）、廃食油回収活動12日（毎月1回）<br>境谷学区内 | 設立以来、毎月１回、１５名程度で学区内の道路及び公園の清掃活動を行い地域の美化に努めている。また平成１１年１２月から廃食油の回収活動を開始し，以後，毎月第３土曜日の午前１０時３０分から１２時３０分まで休むことなく回収活動を継続している。毎年度初めには，廃食用油の回収予定をお知らせする広報を学区内の全戸に配布しており，地域の住民に廃食用油の回収を定着させることについて，多大に貢献している。 |
| 大阪市 | 志水　禮三<br>しみず　れいぞう | 対象活動<br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | 公園、道路等の清掃活動<br>22年<br>毎日<br>大阪市淀川区三津屋南2丁目三津屋公園及びその周辺道路 | 志水　禮三氏は、相当のご高齢であるにも関わらず、地域を愛し、「誰もがいちばん住みたいまち、清潔で美しいまちであって欲しい」という思いから、毎日休むことなく、大阪市淀川区三津屋公園・グラウンド及び、その周辺道路上において空き缶、吸殻などの収集活動、雑草の除草活動、ポイ捨て防止パトロール、子どもの見守り活動の取り組みを続けている。<br>また、地元町会や老人会の地域活動にも積極的に参加し、地域団体からの信頼も厚く、地域の人々との対話を通じて、地域の方々の美化意識の向上を図り、美化活動への参加の呼びかけるなど美化活動の一層の広がりに貢献している。<br>さらに、一心に毎日活動される、その姿は地域の住民のみならず、通勤・通学中の広い地域・世代の方々から認知されており、地域環境美化への啓発効果は大であり、その功績は他の模範とするところである。 |
| 大阪市 | 黒崎町公園愛護会<br>くろさきちょうこうえんあいごかい<br>代表　堀池　三郎<br>会長1名、副会長2名、会計2名　構成員185名 | 対象活動<br>従事年数<br>年間活動日<br>活動範囲 | 公園、道路等の清掃活動<br>49年<br>毎週日曜日<br>大阪市北区黒崎町一帯（黒崎町公園含む） | 公園愛護会は公園の環境美化(清掃活動)、利用の促進、緑化普及の推進を図ることを目的として、地域住民で結成されたボランティア団体である。黒崎町公園愛護会においては、公園の清掃のみにとどまらず、活動範囲を拡大し、黒崎町一帯において、1960年より、毎週日曜日に道路上の吸殻や空き缶等のごみの収集の美化活動を先導的立場で継続的に実施している。<br>本団体の堀池会長は、地区の防犯協会総務部長、地域振興会会長、赤十字奉仕団町団長を兼務し、地域活動への広い見識と他の地域団体との深い交流経験を有しており、結果、本団体の活動は清掃活動に止まらず、道路・公園の雑草の除去、放置自転車の整理活動、花植え活動など、単なる美化清掃活動だけではなく、地域一帯を巻きこんだ、総合的なまちづくり活動としての実践を行っているため、地域の地球環境美化活動の促進や美化意識の向上に対する功績は、極めて大きく、地域のコミュニティーの形成にも大きく寄与されている。<br>2009年9月　大阪市長表彰「道路・河川等における保全、美化運動功労者表彰」受賞 |